

令和4年度（令和3年度対象）

網走市教育委員会 事務点検・評価報告書

令和4年9月

網走市教育委員会

はじめに

本市では、平成20年5月に「網走市の教育目標」を策定し、また、この具現化のために「網走市学校教育計画」並びに「網走市社会教育長期計画」を策定して、次代を担う子どもたちの「生きる力」の育成や、市民の学習活動の支援と学習機会の提供に努めているところです。

こうした教育委員会の活動については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、各教育委員会が毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出、公表することとされています。

当委員会では、令和3年度の事務・事業について、学識経験者の知見を活用した点検・評価を実施し、本報告書のとおり取りまとめを行いました。

今回の点検・評価の結果を踏まえ、今後も本市の子どもたちの心豊かな成長と、市民の皆様の活気と潤いに満ちた生涯学習社会の創造をめざし、学校・家庭・地域はもとより、関係機関・関係団体等との連携を深めて、本市教育のより一層の充実・発展のために全力で取り組んでまいります。

令和4年9月

網走市教育委員会 教育長 岩 永 雅 浩

目 次

I	教育委員会事務点検・評価制度の概要	
1	制度について	1
2	点検・評価の構成	1
II	「令和3年度教育行政推進方針」についての点検	
1	総評	2
2	事業の点検	2
	[学校教育の推進]	
1	幼児期に身につけるべき基礎の育成	2
2	確かな学力の育成	3～4
3	豊かな人間性の育成	4～6
4	健やかな体の育成	6～8
5	支援が必要な子どもに対する教育体制の充実	8～10
6	学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進	10～12
7	学びをつなぎ、安全・安心な教育環境の実現	12～15
	[社会教育の推進]	
1	生涯学習	16～21
2	社会教育	21～25
3	家庭教育	26～27
4	芸術文化	27～34
5	文化財	34～35
6	スポーツ	35～39
7	国際化対応	40
III	教育委員会の活動状況	
1	教育長および教育委員の就任状況	41
2	教育委員会議の開催状況	41～43
3	その他の主な活動	43
4	教育委員による自己点検	44～47
IV	外部評価報告書	
1	総評	48
2	大学という教育・研究機関の検証	48～49
3	社会教育事業に係る外部評価報告書	50～51

I 教育委員会事務点検・評価制度の概要

1 制度について

中央教育審議会等における従来からの議論に加え、平成18年度に発足した「教育再生会議」の第一次報告においても、教育委員会の自己評価の必要性に関して言及されました。こうした状況を背景に、平成19年6月に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条において、平成20年度から、すべての教育委員会において、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

《地方教育行政の組織及び運営に関する法律(第26条)》抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の構成

令和3年度の教育委員会事務及び活動について、点検・評価を次のとおり実施しました。

(1) 目的

本市の教育行政の充実に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とします。

(2) 対象期間

令和3年度とします。

(3) 事務点検

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定する教育委員会の権限に属する事務及び市長から補助執行を受け教育委員会において実際に管理・執行している事務として、令和3年度教育行政推進方針に掲げられた施策に基づく事業について取り組み実績をまとめ、内部点検を行いました。

(4) 委員会活動の点検

教育委員により令和3年度の教育委員活動について自己点検を行いました。

(5) 学識経験を有する方の知見の活用(外部評価)

外部評価を実施するため、東京農業大学生物産業学部 教職課程兼担食香粧化学科 後藤 広太郎教授と、元網走市社会教育委員 岡山一枝 氏に外部評価を依頼しました。

資料として、「網走市教育行政執行について」、「網走市教育行政推進方針」、「令和3年度の主な活動内容など」を提供し、それを基に点検・評価をいただき、報告書を作成しました。

Ⅱ 「令和3年度教育行政推進方針」についての点検

教育行政推進方針は、毎年、市議会第1回定例会において教育長が表明する翌年度の教育行政執行についての具体的な推進方針として、教育予算とともに教育委員会において審議・決定されるものです。

令和3年度事業として、その中に盛り込まれた施策・事業の内容と成果について内部点検を行い、今後の方向性について考察しました。

1 総評

教育行政推進方針に掲げてある事業については、概ね予定どおり実施されています。

こうした点検が毎年行われることにより、課題の特定化と明確化が進み、次年度の方針決定に生かせるものと考えますが、令和3年度においては新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、一部の事業の実施について影響がありました。

2 事業の点検

《点検結果》

学校教育の推進

1 幼児期に身につけるべき基礎の育成

項 目	幼児教育振興補助事業（教材教具補助金）
	平成24年度より福祉部子育て支援課へ所管替え

項 目	私立幼稚園特別支援教育振興補助事業（障がい児教材補助金）
	平成24年度より福祉部子育て支援課へ所管替え

2 確かな学力の育成

項目	学力向上対策事業（継続）
目的	児童生徒の学力の実態を把握するとともに、効果的な授業や対応を推進し、学力の向上を図る。
取組実績	比較・分析が可能な学力テストの実施：小学校 1,039 千円、中学校 751 千円
成果	毎年所要額を予算措置することにより、学力の継続的把握が可能となった。
課題	継続して実施し、分析していく中で、効果的な指導法等の改善を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項目	教材・教具の整備〔教師用指導書整備（拡充）・指導者用デジタル教科用教材整備（新規）・GIGAスクール対応備品（継続）〕
目的	小中学校の教材教具の整備・充実を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・知能検査：小学校 133 千円、中学校 0 千円 ・教材費等配当：小学校 5,593 千円、中学校 4,865 千円 ・義務教育教材の整備(市単費)：小学校 4,515 千円、中学校 3,281 千円 ・理科教育教材の整備(国補助)：小学校 3,428 千円、中学校 2,745 千円 ・教師用指導書、教科書の購入：小学校 116 千円、中学校 8,406 千円 ・プログラミング教育教材の整備：小学校 354 千円 ・指導者用デジタル教科書の整備：小学校 1,232 千円、中学校 453 千円 ・通知票、卒業証書の印刷：小学校 488 千円、中学校 348 千円
成果	毎年所要額を予算措置することにより、教材・教具の整備・充実が図られている。
課題	継続して充実を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項目	GIGAスクールサポーターの配置（新規）
目的	ICT 機器の運用、授業での活用支援、設定に関する支援での業務にあたる人材を配置することにより、学校の ICT 化を円滑に図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭へのクロームブック持ち帰り時の端末設定や通信障害などへの対応 ・一人一台端末の適正管理 ・オンライン学習に向けた設定支援
成果	専門的な知識・技能を有した人材による支援により学校現場のニーズに合った ICT 活用が図られた。
課題	ICT 機器の活用推進のため、教職員の ICT 機器への理解や活用スキルを高める必要がある。
今後の方向性	研修や情報共有を通して教職員が ICT 機器を日常的に活用できる技能を身に付けることができる環境を整える。

項目	国際理解・外国語教育の充実〔外国語指導助手配置増員〕（拡充）
目的	小学校及び中学校における英語授業において、担当教諭をサポートする外国青年「外国語指導助手（ALT）」を配置し、生きた英語に触れることにより、児童・生徒の英語の表現力やコミュニケーション能力の育成を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語指導助手(ALT)の配置(1名) ・小学校 9 校、中学校 6 校を訪問・指導 ・英語能力コンテスト等への協力 ・学校行事、クラブ活動への協力 ・地域における国際交流への協力 R3.10 月から配置予定の 1 名について直前で来日不可となったため、小学校実績なし
成果	ALT の生きた英語に触れることにより、英語の正しい発音や表現力、コミュニケーション能力の育成が図られている。
課題	ALT の来日当初は、うまくコミュニケーションが図れない場面もあることから、3 年程度の継続雇用が必要と考える。
今後の方向性	2020 年度からの小学校での外国語の教科化に合わせ、ALT を 1 名増員し 2 名体制としたことから、引き続きこの体制を維持していく。

項目	学習支援員配置事業（継続）
目的	市費負担による算数・数学における教員を配置し、TT・習熟度別少人数指導や補充学習に取り組むことで、学習内容の基本・基礎を定着させる。
取組実績	退職した教員や、免許所有者を会計年度任用職員として任用し、市立小学校4校、中学校2校に配置し習熟度別授業や少人数指導、補充学習に取り組んだ。
成果	きめ細かな指導が可能となり、基礎・基本の定着が進むとともに、補充学習を通じて児童生徒の学習意欲の向上が図られた。
課題	道教委加配による少人数指導と連携した、より効果的な活用法の検討が必要
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の学力向上に努める。

項目	あばしり寺子屋開催事業（継続）
目的	小学1～3年生を対象に学生ボランティアによるサポート授業を行い、参加児童にとって必要な学力を見極め、「確かな学力」を身に付けさせる。
取組実績	東京農業大学生物産業学部 学生ボランティア 実施回数3回 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、回数3回減 延べ参加人数 1年生0名、2年生3名、3年生15名、その他3名 計21名
成果	低学年からの学習習慣の定着
課題	参加する児童のニーズに応じた学習内容の設定
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童の学力向上に努める。

項目	キャリア教育の充実
目的	児童生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る。
取組実績	2020年4月より全ての小中学校で「キャリアパスポート」の導入を行う。
成果	キャリアパスポート用ファイルの購入（新小学1年生260冊 ※予備含む）
課題	各学校でどのような教科、内容で取り組みを進めるか検討が必要
今後の方向性	毎年新小1に対してキャリアパスポート用ファイルの整備を行い、キャリア教育の充実を図る。

3 豊かな人間性の育成

項目	教材・教具の整備〔学校図書〕（継続）
目的	小中学校の学校図書館用図書の計画的な整備・更新を図る。
取組実績	文科省より示されている学校規模（学級数）に応じた学校図書整備基準冊数及び鮮度を考慮し、各学校へ予算を配当：小学校2,910千円、中学校1,940千円 また、H30年度より図書館で利用する消耗品の購入費として、各校10千円を配当
成果	毎年所要額を予算措置することにより、教材・教具の整備・充実が図られている。 小学校1,943冊購入、中学校1,489冊購入
課題	図書の劣化や破損に対する対応や必要な古書の見極めが必要である。
今後の方向性	令和3年度末の図書整備基準冊数達成率は、小学校全体で99.9%、中学校全体で107.1%となっている。引き続き基準冊数を保持しながら、鮮度を考慮した古書・毀損（きそん）図書の更新に努める。

項目	学校図書館司書の配置（継続）
目的	学校に学校図書館司書を配置し、図書館整備・活用促進を図ることで、児童生徒の読書への関心を高め、学力の向上を図る。
取組実績	司書資格を有する者を配置することにより、学校図書館資料の管理や整理、児童生徒に対する読み聞かせ、学校図書館に関する教育指導への支援を行う。 平成25年度から学校図書館司書1名を小学校3校にモデル的に巡回配置。平成27年度は3名体制として司書教諭不在の状況を解消。平成29年度よりさらに増員して4名体制として、司書教諭配置校にも巡回を行い連携して読書への関心を高める取組を推進している。
成果	本の整理・分類整備が進み、貸出冊数の増加や高学年の利用が増えるなど、児童生徒の読書への関心が深められた。
課題	引き続き児童生徒の読書への関心を向上させるための検討が必要
今後の方向性	今後もすべての学校へ巡回配置を行い、事業を継続していく。

項目	読書感想文コンクールの実施（継続）
目的	読書感想文コンクールを開催し、読書活動の推進を図ることで児童生徒の読書意欲を高めて、自分の考えを文章で表現する力を身に付けさせる。
取組実績	応募作品数：1,824点(小学校1,346点、中学校478点) (小学校)1年生78点、2年生233点、3年生234点、4年生272点、5年生270点、6年生259点 (中学校)1年生216点、2年生191点、3年生71点 賞：各部門ごとに最優秀賞1点、優秀賞1点、佳作1～2点を選出
成果	文章で表現することを通して、豊かな人間性や考える力を育んだ。
課題	選書、応募期間など、児童生徒が取り組みやすい実施方法の検討が必要
今後の方向性	学力向上策の一つとして、今後も継続していく。

項目	網走市子ども会議の実施（継続）
目的	いじめの根絶や命の大切さなどについての意見交換を通して、各学校における望ましい人間関係づくりの意識の醸成と、いじめの問題への取り組みの一層の充実を図る。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止。各学校の取り組みについて資料として冊子にして配布
成果	他校の取り組みを知ることで、自校の活動の参考となっている。
課題	特になし。
今後の方向性	引き続き実施する。

項目	学校教育指導奨励諸補助負担金〔合同観劇事業補助〕（継続）
目的	児童に優れた芸術文化を鑑賞させることにより、豊かな表現力と情操教育の充実を図る。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成果	
課題	特になし。
今後の方向性	引き続き実施する。

項目	いじめ対策事業（継続）
目的	いじめの実態を把握し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等の指導に役立てる。 また、講演会や啓発資料の作成を通して、児童生徒、学校、保護者にいじめ問題への取り組みの重要性を広める。
取組実績	・スクールカウンセラーを活用した学校への指導、助言
成果	いじめ問題の取組について、普及・啓発が図られた。
課題	全ての児童生徒に、「いじめはどんな理由があっても許されない」とする意識と態度の醸成
今後の方向性	学校全体で共通した認識のもと、組織的にいじめ根絶に向けた取り組みへの支援を図る。

4 健やかな体の育成

項目	学校プール管理事業（継続）
目的	夏季における学校教育の一環としての水泳授業実施のため、学校プールの安全な管理運営及び施設整備を行う。（小学校7校）
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内7校のうち5校で実施（網走、中央、西、東、白鳥台小学校） ※2校は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 ・プール管理人を各校1名配置（委託先：シルバー人材センター） ・プール環境の点検も管理人が実施（水質、水温、室温等） ・定期検査実施（学校薬剤師と市1名で残留塩素、大腸菌群、管理日誌記録等点検） ・児童が使用する際は、委託の管理人の他に教師2名を配置し監視する。 ・プール使用時期前後に濾過機の保守点検や屋根シートの付け外しを実施
成果	安全なプール授業の実施により、子どもたちの心身の健全な発達が図られた。
課題	施設の老朽化が進んでおり、施設維持のためのメンテナンスが課題である。
今後の方向性	引き続き学校プールの適切な管理運営に努める。

項目	学校スケートリンク設置補助事業（継続）
目的	冬季における学校教育の一環として行われるスケート授業実施のため、学校スケートリンク等設置運営に要する経費の一部補助を実施校に対して行い、児童生徒の心身の健全な発達を図る。
取組実績	スケートリンク等設置で補助 4校（網走小、東小、白鳥台小、西が丘小）
成果	スケート授業の実施により、子どもたちの心身の健全な発達が図られた。
課題	スケートリンクの造成はPTAの方々による協力が必要であるが、リンクの造成に大きな負担がかかっている。
今後の方向性	事業を継続し、冬季スポーツによる子どもたちの心身の健全な発達を図っていく。

項目	学校給食運営事業〔施設・備品の整備、衛生管理〕（継続）
目的	安全で安心な学校給食の実施により、児童生徒の身体に必要な栄養を摂取し、あわせて食事のマナー等を身につけさせる。また、給食室設備の維持管理、給食調理員の衛生教育等を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 設備・備品の主な修繕・更新の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> 給食調理場床・サッシ補修工事（中央小 495千円） 給食調理場送風機修繕（西が丘小 121千円） 昇降機かごガイドシュー取替工事（第三中 671千円） 学校給食従事職員研修会（年2回） 学校給食巡回指導の実施（年3回、栄養教諭の配置がない3校へ） <ul style="list-style-type: none"> ※保健所による検査 年1回 給食調理員の検便検査、食材の細菌検査の定期的な実施 児童生徒の食物アレルギーに対し、家庭との連携を図り対応
成果	衛生管理に努め、安全・安心でおいしく質の高い学校給食を児童生徒に供給し、健やかな身体の成長を図ることができた。
課題	継続して施設改善・備品等整備・衛生管理等に努めるとともに、児童生徒に安全で安心な学校給食を提供していくための調理体制の整備が必要である。
今後の方向性	今後も施設設備の維持修繕・更新を進めるとともに、給食の安定供給を図るための調理体制の整備を進める。また、学校給食従事職員の衛生教育等を図り、児童生徒に安全で安心な学校給食を供給していく。

項目	学校給食を活用した食育の推進（継続）
目的	栄養教諭の任用により食育の推進を図るとともに、未配置校においても食に関する指導を実施する。地場産物を活用した給食を実施し、地元産業や地場産物への理解を深める。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭による食に関する指導（栄養教諭5名） 「網走ふるさと給食」において、地元産食材を使用した給食を実施（メニュー：ご飯、鮭ザンギ、カラフル金平、しじみ汁、牛乳） 地元産業や地場産物への理解を深めるため、網走産行者菜やあばしり和牛・ほたて・たこを使用した給食を実施し、希望校においては生産者講話を実施 学校給食用パンへの網走産小麦100%使用 鯨食文化の理解を深めるために、鯨肉を使用した給食の実施 野菜摂取量の増加、野菜に親しむことを目的とした野菜の日給食の実施
成果	食育の推進や地元食材を活用することにより、児童生徒の地場産物や食文化に対する理解が深められた。また、栄養教諭未配置校においても食に関する指導を実施し、食育を推進するための体制が整備された。
課題	生産者や流通などの関係機関との連携体制の構築
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭と連携を図りながら、全校的に食育の推進を図る。 地元食材を活用するとともに、生産者の協力を得ながら「網走ふるさと給食」等の地場産品普及事業を継続して実施していく。

項目	児童生徒の健康管理事業（継続）
目的	児童生徒が健康な体で学校生活を送れるよう各種保健事業を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 新入学の児童を対象とした就学時健康診断の実施 在籍する児童生徒を対象とした各種健診の実施（尿検査、結核健診、脊柱側湾症検査、眼科検診、心臓検診、耳鼻科検診）
成果	健康診断を実施することにより、児童生徒の健康管理が図られている。
課題	医師会との連携、各種検診における学校との日程調整及び学校外で実施する検診の検診会場の見直し等が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の健康管理の推進に努める。

項目	子ども体力づくりサポート事業（継続）
目的	市内の小学校に通う児童が体力づくりの支援を受ける環境を整備し、運動習慣の定着や体力づくりの向上に資する。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成果	
課題	教員の指導方法や児童の体力向上に対する意欲付けなどを市内全校に広げていく必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童の体力向上を図る。

項目	タグラグビー大会の開催（継続）
目的	タグラグビー大会を開催することにより、児童の健全な発達・成長を促し、体力向上を図ることを目的とする。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止
成果	
課題	次回以降、市内全ての小学校が参加できるよう呼びかけを行っていく必要がある。
今後の方向性	ラグビー協会の協力をいただき各学校におけるタグラグビーの取り組みを積極的に行っていく。今後も継続して大会を開催していく。

項目	中学校体育文化振興事業補助（拡充）
目的	生徒が対外試合やコンクール等に参加する場合に、経費の一部を補助することにより、保護者の経済的負担を軽減し、体育・文化活動の振興を図ることを目的とする。
取組実績	補助実績 9,717 千円
成果	学校外における体育・文化活動を通じ、生徒の健全な心身の育成を図り、中学校教育の充実に寄与した。
課題	保護者の負担軽減を図っていく必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

5 支援が必要な子どもに対する教育体制の充実

項目	特別支援教育の推進〔特別支援教育費、施設・備品等整備〕（継続）
目的	特別支援学級、通級指導教室（ことばの教室）の学級設備・用具・教材の充実を図るとともに、学級運営上の必要経費について学校配当を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育費学校配当：小学校 8 校 1,742 千円、中学校 6 校 1,090 千円 既存特別支援学級教材備品の整備：小学校 8 校(38 学級)862 千円 中学校 5 校(18 学級)572 千円 通級指導教室(ことばの教室)への教材費等配当：小学校 1 校(1 教室)342 千円
成果	学級設備・用具・教材の整備充実を進めることにより、円滑な学級運営が図られた。
課題	増加傾向にある支援の必要な児童生徒に対する個別ニーズへ対応する必要がある。
今後の方向性	増加・多様化する支援の必要な児童生徒に対し、個々の特性に応じた設備や教材の更なる整備・充実を図る。

項目	特別支援教育研修事業（継続）
目的	障がいのある児童生徒に対しては、様々な工夫と配慮の下での指導が展開されている中で、より障がいに対する幅広い理解と専門性の一層の向上が図られるよう研修の場や機会を設ける。
取組実績	※研修会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止 各種研修講座の案内
成果	
課題	養護学校等の関係機関と更に連携を深める必要がある。
今後の方向性	具体的な指導法を盛り込んだ、より実践的な研修の充実を図る。

項目	特別支援教育支援員の配置（拡充）
目的	教育上特別な配慮を要する児童生徒の特別支援教育推進のため、通常学級及び特別支援学級に支援員を配置する。
取組実績	支援員の配置：小学校 6 校・21 名、中学校 4 校・5 名(1 名増員)
成果	支援員を配置することにより、特別支援学級等でのより円滑な学級運営が図られた。
課題	特別支援教育対象児童生徒の増加に伴い、より充実した支援を行うため、学校の実情に応じた支援員配置が必要である。
今後の方向性	毎年度、各学校の実情に応じて支援員の配置を見直し、限られた職員体制の中で効果的に特別支援教育が実施されるよう、その充実に努める。

項目	教育相談体制の充実〔教育児童相談室運営事業〕（継続）
目的	児童生徒の教育及び家庭児童福祉上の問題に対して、児童生徒及び保護者からの相談に応じ、関係機関との連絡調整を行いながら指導・助言を行う相談室を設置して問題解決を図る。
取組実績	・相談室の開設（相談員は教育から 1 名、福祉から 2 名を配置） ・相談延べ件数：96 件
成果	相談員が学校や関係機関との連絡調整を図りながら、問題解決に向け指導・助言を行っている。
課題	学校をはじめ関係機関と連携を図る上で、日常的な情報交換や対応協議の場を充実し、更に連携を深める必要がある。保護者と情報を共有し、歩調を合わせた児童生徒への指導のあり方が課題である。
今後の方向性	今後も、不登校やいじめ・家庭問題等に対し、学校・家庭・関係機関が連携して適切に対応していくよう相談室の充実を図る。

項目	スクールカウンセラーの配置（継続）
目的	児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識及び経験を有するスクールカウンセラーを配置し、学校における教育相談体制の充実を図る。
取組実績	・市内小中学校の児童生徒のスクールカウンセリング、教職員・保護者に対する専門的助言や情報提供を実施 ・相談数 年間 299 回、1,243 時間
成果	スクールカウンセラーの適切な指導・助言によりの確な課題整理が可能となり、児童生徒の不登校や問題行動等の解決に向け、生徒指導の充実が図られた。
課題	カウンセリングが必要な児童生徒など、学校や教育相談室との更なる連携が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項目	不登校児童生徒への支援の充実〔適応指導教室運営事業〕（継続）
目的	不登校児童生徒に対しての適切な教育相談、適応指導、学習指導などの指導援助を行い、集団生活への適応や学校生活への復帰を促すため、適応指導教室を設置する。
取組実績	・適応指導教室指導員の配置(1 名) ・適応指導教室「クリオネ学級」の開設・運営（毎週月～金曜日 午前 9 時～午後 3 時） ・通級児童生徒数 R3 年度 3 名(小学生 1 名、中学生 2 名)
成果	教育相談や適応指導、学習指導を通し、不登校児童生徒の集団生活への適応の改善が図られている。
課題	児童生徒個々の性格・実情を把握し、学校生活への復帰に向けてそれぞれに見合った指導援助が必要であるが、児童生徒の安定した通級を図ることに難しさもある。
今後の方向性	現在も不登校児童生徒がいることから、一人でも多くの児童生徒が学校復帰できるよう適応指導教室の充実を図る。

項目	学級集団状況把握事業〔Q-Uテストを活用した学級集団状況把握〕(継続)
目的	児童生徒に学校生活意欲と学級満足度の検査を実施し、いじめや不登校などの問題行動の早期発見、予防と対策につなげる。
取組実績	Q-Uテスト(楽しい学校生活を送るためのアンケート式心理テスト)を小学校4校(中央小、西小、南小、西が丘小)、中学校3校(第一中、第三中、第五中)で実施した。
成果	Q-Uテストの結果を、学級経営に反映させることで、児童生徒の悩みや問題行動の早期解決を図ることができた。
課題	継続してテストを実施し、データを蓄積することで、より確実な対応が可能となるので、小中連携の充実が必須となる。
今後の方向性	今後も事業を継続し、より安定した学級経営を図る。

6 学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進

項目	小中学校貸出用通信機器整備事業(新規)
目的	家庭にインターネット環境がない児童生徒に対し、臨時休校等で登校できない場合、貸し出すために整備する。
取組実績	小学校60台、中学校40台
成果	安定した通信環境を構築し、ICTの活用により児童生徒が家庭においても、学習を継続できる環境を整備した。
課題	通信機器の劣化や破損等への対応や更新を検討する必要がある。
今後の方向性	全世帯での安定した通信環境を確保し、ICTを活用した教育の充実を図っていく。

項目	学校開放運営事業(継続)
目的	学校教育に支障のない範囲で、小中学校の体育館を市民に開放し、スポーツ・文化活動の場として活用する。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため停止していたが、令和3年11月から再開
成果	年間を通じて多くの市民の利用があり、スポーツ活動の場となっている。
課題	利用者の増加とともに、希望日に利用できない場合が増えている。
今後の方向性	スポーツ・文化活動の振興を図るため、事業を継続していく。

項目	学校教育指導奨励事業(継続)
目的	教育課程、学習指導及び生徒指導等の当面する学校教育の課題について、実践的な研究を促進する。
取組実績	市内小中学校のうち申請のあった学校に対し、教育研究経費を補助し、各校の公開研究会実施を支援した。
成果	指定校では、当面する課題の実践研究が行われ、教職員の資質向上や児童生徒の学力向上が図られ、実践研究成果の普及に努めている。
課題	教員の授業力向上が児童生徒の学力向上に結びつくよう研究内容の更なる改善を図っていく。
今後の方向性	今後も事業を継続し、教職員の資質向上・児童生徒の学力向上に努める。

項目	コミュニティ・スクール推進事業（継続）
目的	学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域住民が参画できるコミュニティ・スクールの導入を行う。
取組実績	<p>CS研修会 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止</p> <p>導入校 令和元年度 西部地区学校運営協議会（西が丘小、第五中） 東部三校学校運営協議会（東小、白鳥台小、第四中） 呼人地区学校運営協議会（呼人小、呼人中）</p> <p>令和2年度 中央、西地区学校運営協議会（西小、中央小、第二中） 網走小学校学校運営協議会 南小学校学校運営協議会 潮見小学校学校運営協議会 第一中学校学校運営協議会 第三中学校学校運営協議会</p>
成果	学校運営協議会を通じて、地域の方が幅広く関わる場面が確保されている。
課題	各学校においてどのように地域との連携を深めるか今後の取組内容の充実が必要
今後の方向性	研修を行うなど、学校運営協議会の取り組みの充実を図ることができるよう継続して支援する。
項目	奨学資金貸付事業（継続）
目的	能力があるにもかかわらず経済的理由によって就学困難な学生に奨学金及び入学準備金を貸付け、社会の有用な人材を育成することを目的とする。
取組実績	<p>・資金貸付状況 3件 660,000円 大学・専門課程（月額18千円×2名 入学準備金120千円1名） 2件 552,000円 高校・高等課程（月額9千円） 1件 108,000円</p> <p>・償還金収納状況 1,401,800円 現年度分 657,000円（収納率 69.1%） 滞納繰越分 744,800円（収納率 5.7%）</p>
成果	収入基準は、学生支援機構の1.1倍に設定し、更に収入基準の130%超過まで認定するなど、間口を広げることにより利用の拡大を図っている。
課題	貸付償還金の滞納者が増加し、制度の運用に影響が及ばないように、新規滞納者を増やさない等の収納率向上に向けた取り組みが必要である。 経済的理由により就学の機会を失うことがないように、制度の周知を図る必要がある。
今後の方向性	制度の周知を積極的に行い、利用の拡大を図っていく。 今後も事業を継続していく。
項目	大学給付型奨学金事業（継続）
目的	向上心があり、学業成績が優秀な学生であり、経済的理由により就学困難と認められる者に対し、奨学金等を支給し、社会の有用な人材を育成する。
取組実績	<p>大学給付型奨学金 2件 2,000千円</p> <p>サン育英奨学金 1,700千円（入学準備金250千円×2名=500千円 奨学金150千円×4か月×2名=1,200千円）</p>
成果	経済的な理由で就学が困難な学生が希望校に進学することができた。
課題	特になし。
今後の方向性	大学給付型奨学金については、企業からの寄付を原資としているため、新規受付は平成30年度で終了。
項目	学力向上フォーラムの開催（継続）
目的	オール網走で学力の向上を目指し、学校・地域・保護者が一体となって、子どもの望ましい成長を考える場とする。
取組実績	<p>ワークショップ：10ブース</p> <p>研修会参加報告：GIGAスクール構想実現 ICT機器の整備・活用</p> <p>講演：『2030年の社会と教育の潮流』 上土幌町教育長 小堀雄二氏</p>
成果	教職員、保護者、教育関係者等に教育に関する情報を提供することができた。
課題	地域・保護者の参加者を増やす取り組みが必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項目	小中学校就学奨励事業（継続）※教材費等の保護者負担の一部軽減を含む。
目的	教育の機会均等の精神に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒もしくは入学予定者の保護者に対し就学に要する経費を援助することにより、すべての児童生徒が義務教育の円滑な実施に資することを目的とする。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、通学費、給食費、新入学児童生徒学用品費、体育実技用具費、生徒会費、PTA会費、クラブ活動費の援助 ・要保護者に対する修学旅行費の援助 ・学校保健安全法第24条及び同法施行令第8条に定める疾病の治療に要した費用の援助 ・R3 準要保護児童生徒扶助児童数 454名、特別支援学級在籍扶助児童数 70名
成果	経済的支援を要する保護者の負担軽減が図られている。
課題	家庭が地域と連携した学校教育の充実が図られている。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

7 学びをつなぎ、安全・安心な教育環境の実現

項目	教員住宅管理事業（継続）
目的	教職員住宅の維持修繕及び営繕を行い、教職員が快適に生活できる環境をつくる。 (令和3年度末 管理住宅70戸)
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・8月中旬に修繕要望を取りまとめ、9月中旬に現地調査を実施 ・修繕内容：住宅補修、水廻り・ボイラー修繕、暖房設備修繕等 ・人事異動に伴う新入居者の決定(3月下旬に教職員住宅入居者選考委員会による)
成果	修繕要望があった箇所は緊急度が高いものから優先的に修繕を行い、快適な生活環境を整備している。
課題	現状の予算規模内で修繕を継続実施し、耐用年数の長期化を図っていく必要がある。
今後の方向性	今後も現状の予算規模内で維持修繕を行うが、老朽化が進んでいるため、可能な範囲での住環境の整備に努める。

項目	学校管理運営費〔教育環境の充実、学校配当予算〕（継続）
目的	小中学校施設の管理（備品購入、業務委託等）をし、児童生徒や教職員が安心・安全に過ごすことができる環境をつくる。
取組実績	<p>主な備品購入、業務委託の実施状況</p> <p>【小学校備品】：呼人小 芝刈機(204千円)、南小 自動床洗浄機(440千円)、中央小 印刷機(794千円)、西小 印刷機(794千円)、西が丘小 シュレッダー(329千円)、潮見小 自動床洗浄機(440千円)</p> <p>【中学校備品】：第五中 シュレッダー(329千円)、第五中 複合機(792千円)、第一中 紙折り機(267千円)、第三中 印刷機(794千円)</p> <p>【委託業務】：小中学校機械警備、自家用電気工作物保守、消防用設備保守点検、廃棄物収集運搬処理、ストーブ分解掃除、トイレ清掃</p> <p>学校配当予算の執行状況</p> <p>【小学校】 需用費 16,549千円、役務費 692千円、備品購入費 975千円 合計 18,216千円</p> <p>【中学校】 需用費10,887千円、役務費420千円、備品購入費720千円 合計12,027千円</p>
成果	学校からの要望や耐用年数等から備品の購入や業務委託を行い、施設の維持が図られている。
課題	予算の有効活用と優先順位の検証を行う。
今後の方向性	今後についても引き続き、予算規模内で備品管理、業務委託を実施し、児童生徒・教職員の安心・安全な環境づくりを引き続き進めていく。

項目	学校改修事業（継続）
目的	学校施設の長寿命化を図り、児童及び生徒の良好な学習環境を維持する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東小学校プール水槽改修工事（11,638千円） ・ 西小学校地下灯油タンク改修工事（2,772千円） ・ 小中学校バリアフリー設置工事（4,833千円） ・ 第一中学校受電設備改修工事（14,938千円） ・ 第二中学校受電設備改修工事（16,643千円） ・ 第二中学校消防設備改修工事（8,536千円） ・ 第四中学校消防設備改修工事（7,755千円）
成果	改修により、施設の長寿命化が図られた。
課題	改修財源の確保
今後の方向性	より有利な財源となる補助事業等を活用するとともに、改修計画に基づき学校施設や設備の長寿命化を図り、安全安心な学習環境を維持する。

項目	学校施設の営繕・修繕工事（継続）
目的	小中学校の校舎やグラウンド等の維持修繕及び営繕を行い、児童生徒や教職員が安全・安心に過ごすことができる環境をつくる。
取組実績	<p>主な営繕の実施状況</p> <p>【小学校】 南小学校プール更衣室等塗装工事(550千円)、西小学校グラウンド改修工事(1,132千円)、東小学校プールテント補修工事(803千円)、呼人小中学校屋体床面補修工事(493千円)、南小学校屋外排水改修工事(858千円)、西小学校トイレ外壁補修工事(281千円)、西が丘小学校屋体照明取替工事(187千円)、西が丘小学校床張替工事(297千円)、南小学校通学路防犯灯交換工事(410千円)</p> <p>【中学校】 第二中学校グラウンド改修工事(1,187千円)、第一中学校屋体照明取替工事(546千円)、第三中学校屋体床面補修工事(958千円)、第三中学校屋体照明取替工事(570千円)</p>
成果	学校からの要望や耐用年数等から、学校施設の必要な維持修繕及び営繕を行い、施設整備が充実され安心・安全な環境がつけられている。
課題	維持修繕を継続実施し、耐用年数の長期化を図っていく必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒及び教職員にとって安心・安全な環境づくりを進めていく。

項目	網走南ヶ丘高等学校定時制振興補助事業（継続）
目的	定時制高校において、社会の変化に対応した教育を推進するために教材・教具の整備を図る。
取組実績	網走南ヶ丘高等学校定時制振興会に対し、年額90千円の補助を行った。
成果	教材・教具を整備することにより、教職員の指導方法の充実及び生徒の学習支援に寄与した。
課題	教材等の整備により、さらなる生徒の学習意欲や勤労をはじめ社会活動におけるスキル向上のための支援が必要である。
今後の方向性	社会の変化に対応した教育の充実・推進を図るため、今後も事業を継続していく。

項目	網走南ヶ丘高等学校定時制生徒通学手段確保事業（継続）
目的	定時制高校生徒の下校時タクシー乗合利用で、利便性の向上と安全確保を図る。
取組実績	網走南ヶ丘高等学校定時制振興会に対し、年額789千円の補助を行った。 実績 延べ1,046人利用 利用日数197日
成果	夜間の下校時における利便性の向上と安全な下校手段の確保が図られた。
課題	入学者数の確保
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項目	スクールバス運行事業（継続）
目的	網走市郊外の西部地区及び東部地区の児童生徒の安全な通学を確保するため、スクールバスを運行し、通学時の利便性向上を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠距離通学児童生徒のため、西部地区 3 路線、東部地区 5 路線の登下校便を運行する。 ・ 小中学校の広範な教育活動をサポートするため、各校に借上げバスの学校配当を行う。（小学校 1,355 千円、中学校 1,009 千円） ・ 学校の校外学習及び社会科見学等のため、スクールバスの多目的運行を行う。 ・ 休日及び夏・冬休み中の部活動におけるスクールバス運行を行う。
成果	遠距離通学児童生徒の通学における利便性の向上と負担の軽減が図られている。
課題	児童生徒の状況により、停留所や路線を毎年度見直ししていることから、利用者によって乗降場所に遠近の差が生じる、季節や状況によって乗降位置が変更するなどの実態がある。また、過去に設置された待合所が老朽化等により未利用の場合、順次撤去を行う必要がある。
今後の方向性	今後も継続して安全・安定運行に努める。また、路線及び停留所の設定等については、地域と協議のうえ、取り進めていく。

項目	子ども安全対策事業〔安全対策、通学路の整備〕（継続）
目的	児童生徒が安全に通学できる通学路の安全対策を図る。
取組実績	通学路交通安全等プログラムによる関係機関との合同点検を実施し、安全対策について確認を行った（令和 3 年 9 月 6 日、18 名参加）。子どもの安全確保連絡会議を開催し、関係機関との協議を行った（令和 3 年 11 月 19 日、25 名参加）。危険箇所については関係機関の協力のもと対策を実施した。
成果	登下校時における児童生徒の安全を確保した。
課題	より効果的な安全対策について検討する。
今後の方向性	今後も通学路の安全対策を図っていく。

項目	部活指導員の配置（新規）
目的	部活動指導員として、競技団体などを通じ、外部人材を活用することによる。部活動指導の充実と教職員の軽減を図る。
取組実績	第四中卓球部に配置 1 名 実技指導、大会等の引率など指導業務を行った。 指導回数年間 138 回、334 時間
成果	生徒の競技力向上による部活動の充実が図られたとともに教職員負担が軽減された。
課題	競技団体の活動状況にもよるが、継続して関わることのできる人材の確保について検討が必要。
今後の方向性	各学校の要望に基づき、引き続き指導員の確保・配置を進める。

項目	吹奏楽楽器整備事業（継続）
目的	ふるさと寄付を活用し、小中学校の音楽教育を支援すべく吹奏楽における楽器を整備する。
取組実績	市内小中学校（網走小、第一中、第二中、第三中、第五中）から要望のあった楽器を整備した。
成果	楽器整備により、各校の老朽化した楽器を更新でき、取り組める楽曲の幅が広がった。
課題	楽器が高価であるため整備できる規模が限られるとともに、楽器の維持管理の支援も必要である。
今後の方向性	児童生徒の音楽教育の充実を図っていく。

項目	教職員研修事業（継続）
目的	教育課題の解決にあたって、教師の教科指導・児童生徒に関する指導力の向上を図る。
取組実績	学力向上フォーラムの開催
成果	教職員の教科指導・児童生徒に関する指導力の向上が図られた。
課題	新学習指導要領への対応など教育の今日的課題に応じた研修内容の充実を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項目	I C T教育研修事業（新規）
目的	GIGA スクール構想における誰一人取り残すことない、公正に個別最適された学びの実現に向けて、教職員の指導力の向上を図る。
取組実績	・管理職向け ICT 活用研修会 1 回、一般教員向け ICT 活用研修会 2 回、セミナーへの参加 2 名、ICT 活用推進委員会全体会議 2 回、ICT 活用推進委員会推進チーム会議 2 回
成果	学校全体の ICT 化が進むことで、教育の質の向上が図られた。
課題	ICT を「使う」から「活用する」授業実践を推進する必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項目	校務支援システム管理事業（継続）
目的	校務支援システムの運用により、各小中学校の校務軽減と情報の共有化を通じて、教育の質の向上を図る。
取組実績	全ての小中学校で、教職員の校務用パソコンによる校務支援システム(C4th)の運用を開始した。
成果	全ての学校において校務支援システムを活用した業務を行い、業務の定型化・情報の共有化が図られ、効率化した。 (主な業務内容)学籍管理、出席簿、学校日誌、成績管理、出勤簿機能
課題	特になし。
今後の方向性	今後も校務支援システムを活用した業務改善に取り組む。

項目	学校教職員健康診断事業（拡充）
目的	教職員を対象に疾病等の早期発見、早期治療による健康管理を推進するため、健康診断を実施する。
取組実績	・学校に勤務する教職員 219 名の健康診断を実施（うち、要再検 47 名）
成果	健康診断を実施することにより、教職員の健康管理が図られている。
課題	各種検診における学校との日程調整及び学校外で実施する検診の検診会場の見直し等が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、教職員の健康管理の推進に努める。

社会教育の推進

1 生涯学習

(1) 生涯学習を進める体制や意識づくりの充実

項 目	まなび塾フェスティバルの開催（継続）
目 的	生涯学習活動を拓げるため、エコーセンター2000 を生涯学習の拠点として位置付け、市民から講師・企画を募りながら市民誰もが、いつでも楽しく学び続けるためのきっかけづくり・ステップアップの場を創出する。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	
課 題	エコーセンター利用サークルの活動発表を中心に実施しているが、生涯学習活動拡大のため、幅広い周知や参加呼びかけなどを行っていく必要がある。
今後の方向性	個人・サークル等の紹介・発表の場として、市民の生涯学習への取組を喚起する機会として必要な事業であり、実行委員会と十分な協議の上、事業を継続していく。

項 目	大きなかぶ応援事業（自主学習グループ活動促進事業）の実施（継続）
目 的	市内の団体・サークルが自主的に行う学習会・講習会などに対し講師謝金を助成することにより、市民の学習意欲を喚起し、生涯学習の推進を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対 象 団体・サークル会員相互の学習会、市民が参加する学習会、5名以上の参加者が見込める学習会とし、運営補助的の事業を除く。 ・ 要 件 開催する場所・時間・形式は問わない。 講師は、日常活動の指導者を除く外部からの特別講師とする。 ・ 支援内容 講師謝金の助成。 ・ 事業実績 8団体8件 236名（ワークショップ4・講演会4（内1回オンライン開催））
成 果	市民自らが企画する学習会を支援する制度として定着し、既存サークルや子育てグループまで幅広く活用されている。また、令和2年度よりオンラインによる学習会・講習会でも活用可能とし、利便性を高めている。
課 題	自主的な学習・活動のさらなる推進のために幅広い周知 PR が必要
今後の方向性	自主的な学習・活動の拡充に向けて引き続き取り組んでいく。

項 目	子どもと遊ぼうボランティア隊の登録（継続）
目 的	地域社会全体で子どもたちの活動を支援する場の提供が求められていることから、子どもたちと楽しく活動するボランティアを広く市民から募集する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登 録 者 26名 ・ 登録内容 音楽、裁縫、美術、ガーデニング、クイニング、書道など 17種類 ・ 実施内容 土曜日、日曜日に「ロセトクラブ」として実施（41回 282名参加）
成 果	登録された講師により「ロセトクラブ」を開催している。
課 題	登録者の主体的な取り組みを推進するため、活動意向や意見を把握する必要がある。
今後の方向性	趣味や特技を生かしボランティアとして活動していただいております、土日の児童の活動支援に必要な事業であることから、今後も引き続き取り組んでいく。

項目	生涯学習推進指導員バンクの登録（継続）
目的	市民の学習機会を拡充するため、豊富な経験や知識、技能をもつ市民を「網走市生涯学習推進指導員バンク」に登録し、学習成果の還元の間を提供するとともに、学習者が自ら学ぶ機会を創出するための指導者情報を提供することを目的とする。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・登録者 28名 ・指導内容 40項目（6部門23分野） ・指導先 学社融合事業「まちの達人出前事業」講師 網走市民まなびすと講座講師 網走市民てづくりすと講座講師 子ども講座開設事業「ロセトクラブ」講師 子ども講座開設事業「夏休み教室、冬休み教室」講師ほか
成果	市民の学習・文化活動に対するニーズは様々だが、学習相談を経て指導者情報を提供することで、市民の学習の充実が図られた。 また、指導者の学習成果還元の間として、指導レベルに応じた指導機会を用意することができた。
課題	市民が求める学習内容と市民講師の指導内容との適合を意識しながら、登録者の活動機会の提供を進めていく必要がある。
今後の方向性	市民の学習機会を拡充するとともに、指導者への学習成果還元の間を提供することは、登録者の資質向上のほか、生きがいの高揚を図る上でも重要なことから、登録者との意見・情報交換や周知PRなどを行い、今後も引き続き取り組んでいく。

（２）学習情報の収集・提供・相談事業の充実

項目	広報紙、ホームページ、ソーシャルメディア等による学習情報の提供（継続）
目的	社会教育関係事業の周知を図ることにより、市民の幅広い参加を得て事業を推進する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報紙「広報あばしり」に「エコーだより」を掲載 ・市ホームページによる情報提供、報道機関への周知・記事掲載 ・市公式フェイスブック、ツイッターによる情報提供 ・登録者へのメールによる情報提供（お知らせメール@あばしり） ・小学校、中学校、幼稚園等関係機関へのチラシ等の配布 ・ポスターを作成し市内各所に掲示 ・オホーツク・文化交流センター情報コーナーの充実、館内での講座レポート掲示（サークル活動支援：作品展示、販売など）
成果	各種媒体の活用により社会教育事業の周知や活動の推進が図られた。
課題	より効果的なPRのため、情報化社会に対応した手法の研究が必要である。
今後の方向性	引き続き、デザインなどの工夫をしながら広報紙等での周知を図っていく。ホームページやフェイスブックなどのSNSを活用し若い世代を含めて広く情報提供に努める。

（３）生涯学習関連施設の整備、機能向上

項目	オホーツク・文化交流センター改修事業（拡充）
目的	オホーツク・文化交流センター設備更新及び修繕を行う。
取組実績	・屋上防水改修工事 96,360千円
成果	築20年が経過し、雨漏りなどが発生していたため、屋上の防水改修を実施した。
課題	設備の耐用年数や安全性を考慮し、定期的な保守メンテナンスを実施しながら、計画的設備更新や修繕を図っていく必要がある。
今後の方向性	エコーセンターは、市民の学習、芸術及びレクリエーション活動の間として重要な施設であることから、今後も安心安全な施設利用が出来るよう、設備の維持更新に努めていく。

(4) 図書館の充実

項目	電子図書整備事業（拡充）
目的	市民が来館せずに24時間どこでもいつでもインターネットを利用して電子書籍の閲覧、貸出、返却が可能な電子図書館のサービスを提供する。
取組実績	・電子図書数 導入時（令和2年12月15日）2,000点、令和3年度末4,103点 ・ID・パスワード申込者数 1,798名、利用者数1,965名、貸出冊数10,708冊
成果	電子図書館ならではの自動返却機能等の利便性や、英語音声つき資料等を提供することができ、多様なサービス提供と新規利用者の拡大が図られた。
課題	幅広い年齢層の利用促進
今後の方向性	あらゆる世代が楽しめるような魅力ある資料の収集と、電子図書館の利活用の促進に努める。

項目	魅力ある図書や幅広い資料の収集・整備・提供（継続）
目的	新鮮で魅力ある図書や資料の収集を図り、利用者に幅広く情報を提供することにより、多くの市民が読書に親しむ環境づくりを推進する。
取組実績	・資料購入及び寄贈数：図書 4,957冊（内寄贈等 330冊）、雑誌 1,194冊（内寄贈等 225冊）、視聴覚資料 57点（内寄贈 21点）、地方資料 358冊（内寄贈等 290冊） ・図書館蔵書数：R3年度末 205,923冊（地方資料 26,411点を含む） ・図書貸出人数 25,463名、貸出冊数 119,276冊、来館者数（本館） 71,070名
成果	市民の読書に対する興味や関心を深めるために新たな図書や資料の提供ができた。
課題	書架スペースと収集冊数のバランスを考慮した購入と除籍
今後の方向性	現図書館への移転に伴う購入図書に年数経過による劣化及び陳腐化が生じているため、古くなったものの更新を積極的に進め、魅力ある図書や資料の収集を継続する。

項目	地域分庫事業（拡充）
目的	市立図書館から遠い地域において、読書に親しむ環境の整備と充実を図るため、地域分庫を設置する。
取組実績	・市内10箇所の地域分庫の維持管理 ・地域分庫利用者数 831名 貸出冊数 999冊 ・「分庫だより」の作成・配布（郊外地区4分庫） ・蔵書の入替え・整備 895冊購入
成果	市内全域にわたる読書機会の充実が図られた。
課題	地域や施設管理者などとの連携強化
今後の方向性	市内全域にわたる読書環境の整備が図られており、継続開設と蔵書整備や管理運営の充実を図っていく。

項目	ふるさと学習支援事業（継続）
目的	地域情報の発信を図書館の役割とし、市民にふるさと網走を学習する機会や資料の提供を図るとともに、小中学生に対する地域学習の支援を行う。
取組実績	・企画展示の開催（年4回） 「食育展」、「知ってる？北海道」、「あの頃のあばしり」、「ふるさとカルタ」 ・「ふるさとあばしりコーナー」を設置し、地方資料を紹介
成果	期間中の来館者に地域課題についての学習機会を提供することができた。
課題	・地方資料の利用状況等に基づく魅力ある資料展示の検討 ・単発的な展示、紹介から、収集した資料の長期的、系統的なPR方法の検討
今後の方向性	ふるさとあばしりコーナーの資料充実などを通して、市民に対するふるさとの紹介と学習機会の提供を継続する。

項目	インターネットを活用した蔵書公開（継続）
目的	インターネットを活用し利用者サービスの向上を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット（図書館ホームページ）による所蔵資料の検索、新着・新刊案内、各種お知らせ、予約サービス等の実施 ・スマートフォン等に対応した利用者サービスシステムの運用 ・R3年度 アクセス数 253,997件、パスワード新規登録者225名（登録総数 4,509名） ・インターネットによる予約サービス利用 2,228件（予約サービス利用総数 5,612件）
成果	インターネットの活用により、利用者の利便性が図られた。
課題	図書館事業や利用方法の周知など、ホームページやSNSの定期的な内容更新が必要
今後の方向性	今後もインターネットを活用した予約サービスの継続とホームページでの情報提供の充実により、利用者サービスの向上を図る。

（５）読書の普及、読書活動の促進

項目	課題解決型常設展示の実施（継続）
目的	図書館の本は、規則的に分類・配置（日本十進分類法）されているが、利用者の関心の高いテーマ設定により、分類番号に依らずテーマごとにまとめて配置することで、利用者の利便性の向上を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・日本十進分類法とは別に分類して「くらしのコーナー」、「いきいきシニアコーナー」を設置
成果	利用者の関心の高いテーマであり、図書館活用のきっかけ作りとなっている。
課題	配置可能な本のテーマやジャンルが限定される。
今後の方向性	配置する本の適切な選定を行いながら、利用者に喜ばれるコーナーづくりをめざす。

項目	ブックスタート事業の実施（継続）
目的	乳児期から本に親しむ環境を整え、読書活動の基礎を育むとともに、図書館の利用促進を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼロ歳児とその保護者に絵本と図書館利用パンフレットを贈る。（160名） ・子ども名義のかしだしカードの作成（58名）
成果	乳児期から本に親しむことで、将来の読書活動に結びつくきっかけづくりとなっている。また、親子のコミュニケーションづくりの一助となっている。
課題	子どもが自分で本を読む年齢になるまでのフォローアップや読める年齢になったときの支援が必要
今後の方向性	乳幼児期から本に親しむことで、生涯を通じた読書活動へ結びつくよう引き続き実施していく。

項目	学校巡回図書（クリオネ文庫）推進事業（拡充）
目的	小学校と連携し、児童の身近な場所である学校で本に親しむ環境づくりを進めるため、図書館の本を各教室に配置し、子どもの読書活動の機会の充実を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校各教室に30冊ずつ図書を配置。（1～3ヶ月ごとに巡回） ・配置学級数：9校 69学級。配置図書：3,450冊 ・蔵書の入替え・整備 493冊購入
成果	学校の休み時間や授業等で活用され、小学生が本に接する機会が増えている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・実施に当たっては、引き続き学校と連携した取り組みが必要 ・学校図書との役割分担が課題
今後の方向性	子どもの読書活動の一つとして定着してきており、本の入れ替えを行いながら、継続して実施する。

項目	よみきかせ会・お楽しみ会等の開催（継続）
目的	子どもの読書への関心や興味を高め、読書活動の推進を図るとともに、乳幼児を含めた読書環境の充実を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・よみきかせ会（えほんのもり 39回 317名参加、子育て支援センター 4回 38名参加） ・お楽しみ会開催（夏・冬）38名参加 ・一日図書館員体験（夏・冬）34名参加 ・「えほんのもり」よみきかせ会は高校生を含むボランティア団体により実施
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・よみきかせを通じて、子どもの言葉、表現力を磨くことができた。 ・図書館の仕事にふれることにより、読書の楽しさを知るきっかけづくりが図られた。
課題	ボランティア団体の会員減少に伴う協力事業の内容の変更
今後の方向性	広く市民の読書活動を推進するため、継続して実施していく。

項目	ボランティア団体等との協働による読書機会の充実（継続）
目的	読書活動に対する多様なニーズに対し、図書館ボランティアとの協働により幅広い読書活動の推進を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・対面朗読サービス、視覚障がいの方々への録音サービスの実施、乳幼児向け布絵本の作製、「えほんのもり」でのよみきかせ、高齢者施設等でのよみきかせなどを実施 ※図書館まつり、蔵書点検等へのボランティアとの協働は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成果	点字翻訳や朗読CD作成など幅広い読書サービスの提供ができた。
課題	・ボランティアの新たな人材の確保
今後の方向性	幅広い読書活動の推進のため、今後もボランティア団体との協働による事業を継続する。

項目	ボランティア養成事業（継続）
目的	ボランティア団体の学習機会を提供することにより、ボランティア活動を支援し、市民との協働による図書館活動の充実を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体メンバーの講師による小物作り講習会 1/27 フェルトの小物作り講座 2名参加 ※外部講師による中級朗読講座は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成果	新型コロナウイルス感染症予防措置の影響を受け、参加少数の講座開催のみとなった。
課題	ボランティア活動の内容充実と参加者拡大のために講座等の内容の工夫が必要
今後の方向性	多様なボランティア活動があるため、今後も各団体の意見を聞きながら、必要に応じた講習会などを開催していく。

項目	図書館まつりの開催（継続）
目的	図書館活動のPRによる図書館の利用促進と、市民の読書活動の推進に寄与する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども俳句・短歌大会 展示10月6日～10日 応募総数1,078点 表彰式 10月9日（土） ※図書館まつりは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ※読書週間記念事業として一部の事業を実施 10/10 クレヨンカンパニーのいろいろげきじょう2021 参加44名 10/1～12 複製版画展「おしいれのぼうけん」 期間来場者数2,837名
成果	感染予防に留意しながら一部の事業を実施し、図書館の利用促進及び読書活動推進に一定の役割を果たした。
課題	今後も関係団体の協力を得て、連携した事業内容や展示の工夫が必要
今後の方向性	市民の図書館利用のきっかけとなることから、今後も市民に親しまれる事業として継続開催していく。

項目	絵本パック「ベビークリオネ」「プチクリオネ」の貸し出し（継続）
目的	保護者にとって年齢に応じた選定が難しく悩むことが多い乳幼児向け絵本について、適切な資料を提供し、乳幼児と親が絵本に親しむきっかけとする。
取組実績	司書が年齢別に選定した絵本パックを作り、貸し出す。 ・「ベビークリオネ」（0～3歳向け5冊、20セット）貸し出し：225回 ・「プチクリオネ」（4～6歳向け5冊、10セット）貸し出し：40回
成果	乳幼児親子の図書館利用の促進と読書のきっかけづくりが図られた。
課題	今後も親子の利用拡大に向け、絵本の充実や更新が必要
今後の方向性	乳幼児期から本に親しむことで、生涯を通じた読書活動へ結びつくよう引き続き実施していく。

2 社会教育

（1）すべての市民に開かれた学習の場の提供と学習環境の整備

項目	網走市民まなびすと講座の開設（継続）
目的	市民生活向上に関わる地域課題や現代的な課題を学習テーマとして講座を開設する。
取組実績	・初心者のための手作りみそ友講座（6月）14名 ・原子模型を作ろう（7月）8名 ・日食、月食のひみつ（11月）7名 ・ウィルタ刺しゅう入門講座（11～12月全4回）11名（延べ43名）
成果	ウィルタ刺繍講座は、サークルが指導を担い、文化の継承に貢献している。 また、様々なジャンルの多様な講座内容としたことから、新たな市民ニーズに応えることができた。
課題	市民が地域での問題点や課題を解決するきっかけとなる学習の機会として、常に地域や市民活動に関心を払っていかなければならない。
今後の方向性	関係機関や市民との連携、協働により地域の課題の把握に努めながら学習機会を提供していく。

項目	網走市民てづくりすと講座の開催（継続）
目的	市民が自ら講座を開催する際の支援をし、指導技術の向上やサークル活動の活性化を図る。
取組実績	・書道、クラフトバンド、アロマワックスサシェ 3講座5回 ・参加者 33名
成果	市民やサークルのボランティア講師により、多彩な内容の成人講座を開設することができた。
課題	学習成果の還元を開催目的とするほか、市民の要望に応じた分野、開設時期などを検討する必要がある。
今後の方向性	市民の学習成果還元の機会として、主体的な講座開設とサークル活動の活性化につなげていく。

項目	北海道科学大学との連携講座の開催（継続）
目的	北海道科学大学と連携し、市民が幅広い分野について学ぶことができる公開講座を開催する。
取組実績	■北海道科学大学連携講座 3講座 参加者延114名 ①「漢方ってどんなもの～かぜ症候群の漢方治療～」（小松健一教授） 11月4日（木）参加者89名 ②「Scratch（プログラミング教材）を使って網走を紹介しよう！」（木村尚仁教授） 12月19日（日）参加者9名 ③「Scratchを使って網走を紹介しよう！体験報告会」（木村尚仁教授） 3月6日（日）参加者16名（小学生9名、保護者7名）
成果	大学の知的財産と市民の学習意欲の融合が図られた。
課題	大学の知的財産と市民が求める知識、地域課題の解決につながる講座内容との適合
今後の方向性	北海道科学大学やOB会と連携して、充実した講座を開催していく。

項目	あばしり学講座の開設（継続）
目的	網走の魅力や価値を再発見、再確認するために自然環境や歴史的資源を活用しながら、歴史・文化・産業等をテーマとする講座を創設し、参加者同士の交流を深め、学びからまちづくりやひとづくりを進め、地域の活性化を目指す。
取組実績	<p>■単講座</p> <p>①「網走の宝を見つけよう！」初心者向けデジカメ教室 参加者10名（延55名）</p> <p>②「網走湖体験ツアー」カヤック体験他 参加者24名</p> <p>③「網走市ローカル魅力発掘発信ワークショップ」ふるさと納税タイアップ講座 参加者延49名</p> <p>④「知ってる？ゴミの行方！」 参加者延53名</p> <p>⑤「街にヒグマがやって来る！？その背景と原因」 参加者31名</p> <p>⑥「網走流氷ツアー」おーろら乗船体験 参加者9名</p> <p>■青年講座 U-35（対象：18～35歳）</p> <p>①「雪像づくり！」雪像づくり体験教室（全9回）参加者20名（延95名）</p> <p>■ロセトコース（対象：小学4～6年生）</p> <p>①「野菜収穫体験&ピザ作り！」新型コロナウイルス感染拡大のため中止</p> <p>②「かぼちゃ収穫体験&農業見学」 参加者10名</p> <p>③「あばしりの鮭を見に行こう！」 参加者11名</p> <p>④「ジャックオランタンを作ろう！」 参加者12名</p> <p>⑤「雪像づくり！」全3回 参加者延60名</p> <p>⑥「Scratch（プログラミング教材）を使って網走を紹介しよう！」 参加者9名</p> <p>■学生HERO'S（対象：中学・高校・大学生）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア研修会 26名 ・網走湖体感ツアー 13名 ・ロセトコース活動支援（全5回）延106名 ・網子連子ども大会参画（2日間）延41名 ・雪像づくり体験（2日間）延19名 ・網走流氷ツアー 5名
成果	各世代に体験学習を通じて、網走の自然や産業の魅力についての学びを提供したほか、学生HERO'Sについては、高校生・大学生がジュニアリーダーとしての役割を担うとともに、異世代との交流の中で社会的役割を認識しながら郷土を学ぶ機会となった。
課題	まちづくりや人づくりにつながる題材の研究や手法の工夫によって魅力ある講座づくりを進めることが重要である。
今後の方向性	関係機関との連携により、参加者相互の交流を含めて網走の魅力の発信と新たな文化の創造につながる講座展開に取り組んでいく。

項目	寿大学の開設（継続）
目的	網走の魅力や価値を再発見、再確認するために自然環境や歴史的資源を活用しながら、歴史・文化・産業等をテーマとする講座を創設し、参加者同士の交流を深め、学びからまちづくりやひとづくりを進め、地域の活性化を目指す。
目的	社会の変化に適応するために必要な知識や生活技術の習得、健康の維持など、積極的な高齢者の生きがいを求める学習の場を提供する。
取組実績	<p>・大学 開設日 4月～翌年3月／第2・第4水曜日</p> <p>会場 エコーセンター2000</p> <p>内容 一般教養講座（全10講座中コロナにより3講座中止）</p> <p>クラブ活動、自治会活動、入学式、賀寿祝賀会、卒業式並びに修了式</p> <p>※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、自治会総会は中止。</p> <p>・大学院 開設日 4月～翌年3月／第3水曜日</p> <p>会場 エコーセンター2000</p> <p>内容 郷土史コース（1年）、自分史コース（2年） 開設数10回</p> <p>・在籍数 197名（1年22名、2年25名、3年12名、4年16名、大学院31名（1院10名、2院21名）、生涯研究生91名）</p>
成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部講座や行事が中止になったものの、高齢者の生きがいや生活技術の習得と社会参加の促進のために必要な学習機会を自治会の協力により提供できた。学年別学習や大学院1年生のクラブ活動は、仲間づくりの機会ともなり、高齢者の学習意欲の更なる高揚が図られた。
今後の方向性	高齢者の学習意欲に対応するとともに、学年別学習、自治会活動、サークル活動を通じて社会参加や地域交流を促進することにより、高齢者の知識や技術等を広く市民や後世に伝える大切さを指導していく。

項目	暮らしをデザイン 2021 の開催（継続）
目的	市民一人ひとりが家庭や学校、地域社会における男女平等意識の高揚を図るため、女性学、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスなど、現代的生活課題を学習する講演・学習会を開催する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・開設日 2月19日（土） ・講演名 「働きたいし子育てもしたい～笑顔の母親と父親を増やすために～」 （会場及びオンラインによるハイブリット形式の講座） ・講師 株式会社ライフシフトジャパン 代表取締役 安藤 哲也 氏 ・会場 エコーセンター2000視聴覚室 ※Zoom参加者は各自宅からオンライン参加 ・内容 父親の育児・家事参加と母親の社会進出によって変わる社会において、父親・母親がどのような意識改革・働き方改革を行うべきかを考える講座。 ・参加者 15名（会場参加7名、Zoom参加8名）
成果	住民が課題と感じていることを知り、テーマに取り入れる地域課題の発掘と周知方法の検討が必要である。また、幅広い世代の生活などを見つめなおす機会とするためには、課題を共有しながら相互理解を深めるテーマやプログラムを研究していく必要がある。
課題	国費補助の状況が変化中、教室の安定的な運営を図る必要がある。
今後の方向性	男女共同参画や LGBTQ などをはじめとした、現代の生活課題に関する学習機会を、様々な市民に拡大普及していくため、講演内容や開設方法を研究していく。

（2）子どものための学習や体験の場の提供

項目	放課後子ども教室推進事業（継続）
目的	子どもたちの安全で安心な活動拠点づくりのために、放課後や週末に地域の方々の参画を得て、子どもたちに勉強やスポーツ・文化活動、交流・体験活動の場を提供する。（遊村あばしり）
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・開設日 5月～翌年2月／平日15時～17時／休日10時～12時 ・開設数 244回 5月、6月、8月、9月の一部、緊急事態宣言の発令により中止。 ・会場 市内7カ所（コミュニティセンターほか） ・指導者 市内4団体 ・内容 ①キックベースボール、トランポリン、スポーツライティング、音楽 ②遊び、工作、学習とアート体験、書道、スポーツ、季節の遊びほか ③遊び、学習、工作ほか ④語学学習、工作ほか ・参加数 197名（延2,317名）
成果	NPO法人等が有償ボランティア活動として実行委員会を組織し、それぞれの団体の個性を活かした学習・体験プログラムを提供することにより、子どもたちの放課後や週末に安全で安心な居場所を開設できた。
課題	国費補助の状況が変化中、教室の安定的な運営を図る必要がある。
今後の方向性	地域の指導者や安全な活動場所の確保を図りながら引き続き取り組んでいく。

項目	あばしり科学フェスティバルの開催（継続）
目的	子どもたちが大勢集まり、様々な楽しめる空間や、日常の遊びのヒントになるような場を提供し、遊びから培われる「子ども文化」の醸成を支援する。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止（中止年度：令和2年度、令和3年度）
成果	
課題	市民指導者、スタッフの育成・充実の促進
今後の方向性	ほかの社会教育事業との連動により、市民指導者・スタッフのさらなる育成に努めながら取り組んでいく。

項目	ロセトクラブの開催（継続）
目的	子どもの余暇の充実のため、市民ボランティアの指導者により学習機会を提供し、子どもの創造性や探求心を高めるとともに、個性や自主性を向上させる。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ■ロセトクラブ（短期） 4月～翌年3月／27回 212名 内 容：工作、編み物、生け花、書道、英会話など ■ロセトクラブ（長期） 6月～翌年3月／14回 10名（延70名） 内 容：ヴァイオリン教室 指導者：子どもと遊ぼうボランティア隊9名
成果	家庭、学校、地域の教育力の実態に配慮しながら、これを補完する形で子どもの心身の健康・成長に資する学習機会を提供できた。
課題	市民ボランティアの自主運営としているため、開催時期や人数などで指導者と参加者ニーズが合わない場合がある。
今後の方向性	指導者と職員が連携を図り、より効果的な運営方法を研究していく。

項目	中学生、高校生への自習室開設（継続）
目的	オホーツク・文化交流センターの空き室を中学生・高校生の自主学習の場として開放することにより、青少年の居場所づくり、学力向上に資する。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止（中止年度：令和2年度、令和3年度）
成果	
課題	利用者が増加した場合の部屋確保等
今後の方向性	施設運営に支障のない範囲で利用者の要望を反映しながら今後も取り組んで行く。

項目	子どもと動物ふれあい事業（継続）
目的	動物とのふれあいは、子どもの情操の発達に有効であることから、子どもたちに動物とふれあう機会を設け、生命を大切にし、心豊かな子どもの育成を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ■ふれあい動物園の開催 ・開催日 8月8日（日）、8月22日（日） ※新型コロナウイルス感染症拡大により全8回中、2回のみ実施 ・会 場 呼人スポーツ・トレーニングフィールド ・内 容 ウサギ、ハムスター、モルモット、ヒヨコ ・参加者 233名（子ども140名、大人93名）
成果	子どもにとって動物との接触は、楽しく貴重な体験であり、情操の発達に役立っている。
課題	動物の負担や飼育状況を飼育委託先の団体と連絡調整しながら、開園手法を研究する必要がある。
今後の方向性	毎年、多くの市民が来場されることから、今後も継続して実施する。

項目	子ども夢育事業（継続）
目的	市内中学生を対象に、夢や人生などをテーマとした文化講演を開催し、夢を持って生きることの大切さを学び、感性豊かな心を育むことでたくましく生きる力を形成する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日 11月30日（火） ・会 場 網走市民会館 大ホール ・講 師 大前 光市 氏（義足のダンサー） ・内 容 プロダンサーを目指していた講師が交通事故により左膝下切断となるが、障がい自らの魅力として受け止め、義足なしで踊る唯一無二のスタイルを確立し、パラリンピック開会式出演などの夢を果たした体験談及びパフォーマンスを披露。 ・参加者 274名（市内中学校2年生・教職員等）
成果	夢を持つことの大切さ、仲間との支え合い、自分で選択することなど、講師の体験談を通じて学習することで、中学生が人生において大切なことを学ぶ機会となっている。
課題	講師選定や開催時期、場所、手法などについて学校との連携調整が必要
今後の方向性	学校と連携し、効果的な開催手法を研究しながら事業を進めていく。

項目	夏・冬休み教室の開催（継続）
目的	子ども（小学生）の創造性や探求心を高めるとともに、個性や自主性を向上させる。
取組実績	<p>■夏休み教室（4教室 全5回 32名）</p> <p>①「アロマワックスサシェを作ろう」（全2回）参加者13名</p> <p>②「フラダンスを楽しもう」 参加者6名</p> <p>③「クラフトバンドでペン入れを作ろう」 参加者7名</p> <p>④「茶の湯を楽しもう」 参加者6名</p> <p>■冬休み教室（1教室 4名）</p> <p>①「漢字を楽しもう」参加者4名</p> <p>実施協力：ロセトクラブ講師、子どもと遊ぶボランティア隊の皆さん</p>
成果	家庭、学校、地域の教育力の実態に配慮しながら、これを補完する形で子どもの心身の健康・成長に資する学習機会を提供できた。
課題	子どもを対象とした創作体験事業を検証・評価し、網走の魅力や価値に関心を寄せることができる学習プログラムを今後も引き続き検討する必要がある。
今後の方向性	夏休み・冬休みでの多様な学習プログラムを今後も検討していく。

（3）学習成果を還元する機会の充実

項目	学校支援地域本部事業の実施（継続）																																			
目的	家庭・学校・地域が一体となって、子どもを育てる体制を整える。																																			
取組実績	<table border="1"> <tr> <td>・学習支援活動</td> <td>14校</td> <td>45件</td> <td>ボランティア延数</td> <td>624名</td> </tr> <tr> <td>・部活動指導補助</td> <td>2校</td> <td>2件</td> <td>ボランティア延数</td> <td>106名</td> </tr> <tr> <td>・環境整備支援</td> <td>0校</td> <td>0件</td> <td>ボランティア延数</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td>・登下校安全指導</td> <td>7校</td> <td>8件</td> <td>ボランティア延数</td> <td>3,184名</td> </tr> <tr> <td>・学校行事補助</td> <td>1校</td> <td>1件</td> <td>ボランティア延数</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>・その他の支援</td> <td>4校</td> <td>6件</td> <td>ボランティア延数</td> <td>392名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>28校</td> <td>62件</td> <td></td> <td>4,316名</td> </tr> </table>	・学習支援活動	14校	45件	ボランティア延数	624名	・部活動指導補助	2校	2件	ボランティア延数	106名	・環境整備支援	0校	0件	ボランティア延数	0名	・登下校安全指導	7校	8件	ボランティア延数	3,184名	・学校行事補助	1校	1件	ボランティア延数	10名	・その他の支援	4校	6件	ボランティア延数	392名	合計	28校	62件		4,316名
・学習支援活動	14校	45件	ボランティア延数	624名																																
・部活動指導補助	2校	2件	ボランティア延数	106名																																
・環境整備支援	0校	0件	ボランティア延数	0名																																
・登下校安全指導	7校	8件	ボランティア延数	3,184名																																
・学校行事補助	1校	1件	ボランティア延数	10名																																
・その他の支援	4校	6件	ボランティア延数	392名																																
合計	28校	62件		4,316名																																
成果	平成20年度の実施以来、事業についての市民、教員の理解も進み、活動が定着している。																																			
課題	学校からの要望に対応できる体制の整備とボランティアの育成																																			
今後の方向性	市内全小中学校で導入されたコミュニティスクールと連携を図りながら、推進体制の整備を行い、事業を継続していく。																																			

項目	学社融合事業「まちの達人出前事業」の実施（継続）
目的	学校の企画により、豊富な経験や知識・技能をもつ市民を授業の講師として派遣する。
取組実績	<p>・対象 市内小中学校の授業</p> <p>・要件 1校あたり原則3回を上限とする。授業時間は、1回2時間程度とする。</p> <p>・支援内容 講師謝金を支援する。</p> <p>・事業実績 10校19件 市民講師 8名3団体</p> <p>・教科内容 総合的学習13件、体育指導6件</p>
成果	総合的な学習の時間を中心に、地域の歴史・文化・マナーを学ぶために地元の人材が活用された。また、防災や茶道、体育などの専門的な科目において、技術・知識を持つ市民が指導にあたった。
課題	「学校支援地域本部事業」と本事業の調整を図り、市民の力で網走の子どもの学習を支援する事業として定着させていくことが必要である。
今後の方向性	学校職員への周知に努めるとともに、「学校支援地域本部事業」も含めた中で、市民の学習成果の社会還元の一つとして推進を図っていく。

3 家庭教育

(1) 家庭教育の支援

項目	家庭教育学級、家庭教育フォーラムの開催（継続）
目的	生活や地域課題に基づいた講座を開設し、豊かな市民生活を支援する。
取組実績	<p>■家庭教育学級 小学校（西小学校） 参加者29名 「子どもたちを取り巻くインターネット環境の実態と課題」 有限会社イワイ 代表取締役 岩井 孝浩 氏</p> <p>中学校（第三中学校） 参加者18名 「普段の疲れやこり、こわばりを解消するストレッチ教室」 スポーツクラブPHYSIT 代表取締役 大森 達也 氏</p> <p>郊外地区（第五中学校、西が丘小学校） 参加者16名 「ヨガ教室」 札幌水野ヨガ学院認定講師 川瀬 真理 氏</p> <p>■家庭教育フォーラム兼網走市父母と先生の会連合会研究大会 内 容 10月2日（土）9時30分～11時40分 エコーセンター2000 エコーホール 参加者 190名 講演「少しの努力でできる子を育てる ～ひとりひとりの良さを生かして～」 講師 池田 清彦 氏（生物学者、早稲田大学・山梨大学名誉教授）</p>
成果	家庭教育学級は、年度ごとの当番制で各学校の父母と先生の会連合会の自主的な企画によって、年齢や地域的な個別テーマにより実施しており、毎回多くの参加者がある。
課題	学校や父母と先生の会連合会などとの連携による事業のため、取り組む過程の中で事業目的についての共通理解を得ることが必要である。
今後の方向性	子育て・家庭教育に関する講座は、趣旨を充分伝え、父母と先生の会連合会などの市民の声を反映させたプログラムの編成を行いながら実施していく。

項目	親と子のふれあい教室（継続）
目的	1歳半～3歳の幼児を育てる親のために生活の中で役に立つテーマについて親子で学び、体験する機会を提供するとともに、親同士の交流の場となるよう開催する
取組実績	<p>■第1期（参加者8組 延50名）</p> <p>①「おうちでできる救急講座」（講師：網走消防署救急係）参加者6組（12名）</p> <p>②「アルバムカフェ～もしもカードを作ろう～」（講師：松永準子氏）参加者6組（12名）</p> <p>③「絵本とともだちになろう♪」（講師：稲川喜代子氏）参加者7組（14名）</p> <p>④「先手必勝！～歯の話～」（講師：三崎ゆり氏）参加者6組（12名）</p> <p>※新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、全講座オンラインで実施</p> <p>■第2期（参加者14組 延81名）</p> <p>①「こころすくすく生活リズム」（講師：網走市保健師）参加者13組（15名）</p> <p>②「食べることって楽しい」（講師：網走市栄養士）参加者8組（17名）</p> <p>③「ひとりでできるかな」（講師：吉岡美代氏）参加者12組（26名）</p> <p>④「超簡単！手作りおもちゃを作ろう！」（講師：網走市保育士）参加者11組（23名）</p>
成果	新型コロナウイルス感染症拡大の中でもオンラインで開催したことにより、幼児を抱える受講者も安心して参加しやすい受講環境を作ることができた。
課題	子育ての不安などを聞き取り、解決できるような内容を研究し、若い子育て世代の居場所、ネットワークづくりにつなげていく必要がある。
今後の方向性	保健センター、子育て支援センターとの連携を強化し、より充実した講座を開催するために、子育て支援センターの「リフレッシュ講座」と連携して取り組んでいく。

項目	幼児を育てる親の子育て講演会（継続）
目的	都市化、核家族化、少子化の影響により、子どもを育てることが難しくなっており、子育てに迷い、悩みを抱く親が多くなっていることから、幼児期の子育てに精通した講師を招き、情報の提供を行い不安の解消に努める。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日 7月8日（木） ・講演名 「HSCの子育てハッピーアドバイス」※HSC：ひといちばん敏感な子 ・講師 真生会富山病院 心療内科部長 明橋 大二 氏 ・参加者 83名（会場47名、オンライン36名、託児利用11名）
成果	会場とオンラインによるハイブリット形式で実施し、幼児を抱える受講者も安心して参加できるよう託児も行い受講環境を整えた。
課題	子育ての不安などを聞き取り、解決できるような講座内容を研究し、開設方法を研究していく。
今後の方向性	会場参加とオンライン参加のハイブリット形式での開催を検討し、子育て支援センターや保育施設などと意見交換や情報交換を行いながら、内容の充実を図っていく。

（２）子どもを育む地域力育成の支援

項目	豊かな心を育てる活動推進会議事業の支援（継続）
目的	子どもたちの豊かな心を育てるための啓発活動を行う「豊かな心を育てる活動推進会議」が行う事業を支援する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ■豊かな心を育てる小中学生の意見発表会 「あいさつ」「親切」「環境・美化」「命の大切さ」「勇気」「やり抜く力」などをテーマに、自分の考えや体験したことを発表 ※新型コロナウイルス感染拡大のため中止（開催予定1月29日（土）） ※「意見発表文集」を作成し市内に配布 ※文集掲載者者 15名（小学生9名、中学生6名） ■啓発活動、標語募集 「あいさつ」「親切」「環境美化」「命の大切さ」「家族」「働くこと」の各テーマから選んだ標語を募集し、入選30作品を活用したカレンダーを作成 応募数：1,426点 カレンダー作成：2,000枚
成果	新型コロナウイルスの感染拡大の観点から、意見発表会を中止としたが、意見発表文集の作成を通じて、豊かな心を育てる活動を継続した他、学校とも連携して標語募集を行い、啓発活動を実施した。
課題	標語テーマの再検討など、活動がさらに活発化する取り組みが必要である。
今後の方向性	青少年の健全育成を推進するために必要な取り組みであり、今後も推進していく。

4 芸術文化

（１）文化活動の促進

項目	文化団体の活動支援（継続）
目的	市内文化団体で構成される網走市文化連盟が、広く市民対象に行う郷土文化振興事業に対して助成することにより、市民文化の振興・発展を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ■第22回市民文化フェスティバル（9月～11月） ①子ども書道展（小学生） 9月2日～7日 ②子ども絵画展（小学生） 11月11日～14日 ③子ども書道・絵画展（幼児・中学生） 11月26日～12月1日 ※華道展、盆栽展、舞台芸能発表、俳句展、合唱祭については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成果	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、子ども書道展・絵画展以外については事業を中止とした。
課題	文化連盟の自主性を発揮した取り組みがなされており、現状で課題はない。
今後の方向性	市民の文化団体活動の振興・発展のため必要な助成事業であり今後も引き続き実施する。

項目	文化芸術振興褒奨金事業（継続）
目的	文化芸術分野において、全国大会等に出場する個人・団体等へ支援を行い、文化芸術の振興を図る。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により申請なし。
成果	
課題	広く事業を活用してもらうため更なる周知広報が必要。
今後の方向性	文化芸術活動の意欲向上のため、広報PRを図っていく。

項目	網走市民大学の開催（継続）
目的	幅広いジャンルの講師を招聘し、市民に学習機会を提供する事業に対し助成することにより、市民の学習意欲を高め、新しい知識の習得や、教養の向上を図る。
取組実績	<p>■網走市民大学講座 開設日：7月～11月、講座数：5講座</p> <p>①「フードライターから見た地域を元気にする食の魅力、食のおもてなし」 フードライター 小西 由稀 氏（7月9日開催、参加者121名）※オンライン開催</p> <p>②「城から見た織田信長と明智光秀」 城郭考古学者 千田 嘉博 氏（8月19日開催、参加者145名）</p> <p>③「漢方ってどんなもの～かぜ症候群の漢方治療～」※9月7日開催予定を変更 北海道科学大学教授 小松 健一 氏（11月4日開催、参加者89名）</p> <p>④「菌活の科学」 東発酵醸造研究所 東 和男 氏（10月5日開催、参加者115名）</p> <p>⑤「トークライブ『因果なお仕事』」 小説家 桜木 紫乃 氏（10月30日開催、参加者209名）</p> <p>会場：エコーセンター2000 エコーホール（①～④）及び市民会館 市民ホール（⑤） 内容：自然科学・人文科学など 参加数：全講座登録者106名、単科講座受講者225名、延参加者679名 運営：網走市民大学役員会</p>
成果	1講座がオンライン開催となり、1講座が日程変更となったものの、市民組織により、幅広いジャンルの充実した学習内容を編成し、円滑な運営が行われた。
課題	地域や生活に密着した学習内容が編成されているが、幅広い層への参加拡大や講師選考など限られた予算の中で効率的な運営を図ることが求められる。
今後の方向性	役員会において、学習プログラムの編成方法などの検討や市内の他の団体・機関で企画される講演会等との情報共有を図ることにより、ねらいとテーマを明確にしたうえで講師選定などに工夫しながら引き続き取り組んでいく。

項目	ふるさとアーティスト公演事業（継続）
目的	網走市にゆかりのあるアーティストに発表の場を提供し、市民との交流を深めることで、様々なジャンルの優れた芸術文化の専門家たちの活動拠点となるような環境づくりを目指す。
取組実績	<p>※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公演を中止したことにより、市民に広くふるさとアーティストを知ってもらう目的で、FMあばしりの番組を活用したアーティスト紹介番組を企画制作・放送した。</p> <p>番組名 「ふるさとアーティスト in ABASHIRI」 放送日 10月4日（月）～11月13日（土） ・毎週月曜日 17時10分頃から約15分間 ・毎週水曜日 14時15分頃から約15分間 ・毎週土曜日 9時45分頃および16時45分頃から約15分間</p> <p>放送回数 計24回 出演者 網走にゆかりのあるアーティスト12名 放送内容 アーティストの活動紹介、楽曲や作品の紹介、網走の思い出話など</p>
成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からイベントは中止としたが、FMあばしりを利用して出演予定アーティストの紹介を実施し、市民との交流の切っ掛けづくりを行った。
課題	市内の別の行事との連携や、ふるさとアーティストの地域での活動など、市民や出演者等の意見を取り入れた長期的な視点での実施方法を検討する必要がある。
今後の方向性	新型コロナウイルスの感染拡大防止の視点も取り入れながら、市内の他のイベントとの連携を進め、街の賑わいと事業との相乗効果を検討していく必要がある。

項目	芸術文化合宿誘致事業への支援（継続）
目的	芸術文化団体の合宿受け入れを行い、市民との交流推進と芸術文化の向上を目指す「芸術文化合宿実行委員会」が行う事業に助成を行い、芸術文化活動の拠点となる体制作りを進める。
取組実績	①山中能舞台（大阪市） 1月4日（火）～8日（土）5日間 受入人数：5名 補助内容：合宿活動における移動手段の確保、稽古会場の確保 ※他に予定していた2団体（札幌大谷大学美術学部、北見地区吹奏楽連盟オホーツクバンドクリニック）については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止
成果	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、1団体のみ受け入れとなったものの、市外の芸術団体が稽古合宿を行い、市民の芸術文化に対する関心を深める機会となった。
課題	芸術文化団体の合宿地として定着するためには支援体制と併せ、合宿先として選択されるための魅力ある資源のPR活動が必要となる。
今後の方向性	実行委員会が主体となって、合宿団体への支援体制の充実や網走の魅力について広報PRに取り組んでいく。

項目	アトリウムロビーコンサート（継続）
目的	エコーセンター2000の来館者に気軽な鑑賞機会を提供するとともに、市内の音楽活動家や団体の活動発表の場となるよう、アトリウムロビーを活用したコンサートを開催する。
取組実績	①琴伝流大正琴 7月10日（土）11時30分～12時30分 演奏者7名 聴衆数20名
成果	令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、大会議室での開催としたところ、1団体のみ開催となった。
課題	より多くの市民音楽家や団体、サークルが活動成果の発表の場となるよう、市民周知と合わせ、活動機会の醸成を図っていく必要がある。
今後の方向性	市民音楽家や団体、サークルが気軽に活動成果を発表できるよう、情報提供を実施する。

項目	にじいろ音楽祭（継続）
目的	障がい者への学習支援体制の整備に取り組み、障がい者の社会活動を支援する。
取組実績	※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より中止。
成果	
課題	障がい者の社会活動を支援する仕組みづくりと体制づくりが必要。
今後の方向性	障がい者の社会活動を一層支援するための取り組みを検討していく。

(2) 鑑賞機会の拡大

項目	オホーツク・文化交流センター芸術文化事業の開催（継続）
目的	優れた芸術文化の鑑賞機会を市民に提供するため、市民企画などを取り入れ、オホーツク・文化交流センター主催事業として実施する。
取組実績	<p>①宝くじおしゃべり音楽館 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止</p> <p>②親子クラシック 2021「クラデビ 赤ちゃんと一緒にクラシックデビュー」 開催日時 8月21日（土）午前の部 10時30分～11時30分 午後の部 13時30分～14時30分 会場 エコーセンター2000 エコーホール 出演者 斉藤裕太（ヴァイオリン）、木原奈津子（ピアノ） 入場者 141名（午前73名、午後68名） ※入場料無料 市民協力 8名（午前4名、午後4名） ※ホールボランティア</p> <p>③ザ・ピアノマジック！世界が認めるピアノデュオ「レ・フレール」が奏でるピアノの魔法 開催日時 11月6日（土）16時～17時30分 会場 網走市民会館 市民ホール 出演者 レ・フレール 入場者 374名※入場料：一般3,500円、高校生以下2,000円（当日券500円増） 市民協力 20名 ※ホールボランティア</p> <p>④土田英順クリスマスチェロコンサート（東日本大震災チャリティコンサート） 開催日時 12月25日（土）11時～12時 会場 エコーセンター2000 アトリウムロビー 出演者 土田英順（チェロ） 入場者 120名 ※入場料無料（募金箱設置） 市民協力 2名 ※ホールボランティア</p> <p>⑤南国の音ステイールパンコンサート 開催日時 1月22日（土）14時～15時 会場 エコーセンター2000 エコーホール 出演者 PAN NOTE MAGIC 入場者 216名 ※入場料：一般1,000円、高校生以下500円 市民協力 13名 ※ホールボランティア</p>
成果	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1公演が中止となったが、4公演を開催し、市民に芸術文化の鑑賞機会を提供できた。
課題	市民ニーズの把握を行い、優れた芸術鑑賞の提供を行うため、市民の企画提案を取り入れながら事業の推進を図る。
今後の方向性	市民ボランティアや市民企画団体など、市民との協働により事業運営を図り、優れた芸術鑑賞機会を市民に提供する。
項目	あばしりファミリー劇場（継続）
目的	子どもたちに、質の高い優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供する「あばしりファミリー劇場実行委員会」が行う事業に助成し、子どもたちの舞台芸術に対する関心を高め、感性豊かな人格形成をめざす。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成果	
課題	市民実行委員会による効率的で安定した企画運営が必要。
今後の方向性	親子で一緒に鑑賞できる数少ない芸術鑑賞事業であり、市民実行委員会で運営方法を検討しながら、引き続き実施する。

項目	青少年音楽教室（継続）
目的	プロの演奏家またはプロに準ずる指導者を迎え、市内の小・中・高校の吹奏楽部員を対象に管弦楽器の指導を受け、技術の向上と音楽性の高揚を図りながら、青少年の音楽文化の振興を目指す。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成果	
課題	限られた予算内で、青少年の音楽文化の振興を図る必要がある。
今後の方向性	クラシック音楽鑑賞会事業と連携し、引き続き青少年への演奏指導を進める。

（３）美術館の充実

①所蔵作品の展示

項目	郷土作家「居串佳一」をはじめとする所蔵作品の展示（常設展）（継続）
目的	居串佳一などの郷土作家や地縁作家、オホーツクに主題を持つ作家などの作品を収集・保存・調査・研究し、地域の芸術文化を次世代に引き継いでいく。
取組実績	常設展 開館日数 210日 観覧者数 高校生以上 1,305名 中学生以下 123名 合計 1,423名
成果	郷土出身作家や地縁作家の作品を公開することができた。（*緊急事態宣言により、5/1～7/4、8/27～9/30 臨時休館）
課題	作家の紹介など、展示方法の改善についての検討が必要である。
今後の方向性	今後も郷土出身作家等の作品収蔵に努め所蔵作品の充実を図り広く郷土作家を紹介していく。

項目	所蔵作品展『藤倉英幸の世界』（継続）
目的	美術館所蔵作品を特別展示し広く紹介する。
取組実績	・会期 所蔵作品展 4月10日～4月25日（14日） ・観覧者数 高校生以上 107名 小中学生以下 1名 合計 108名
成果	緊急事態宣言及び照明改修工事のため休館し、実質10日であったため観覧者が少なかった。
課題	特になし。
今後の方向性	常設展に加えテーマを決めて所蔵作品を広く紹介していく。

②企画展の開催

項目	『オホーツクの作家展』の開催（新規）
目的	オホーツク管内に在住する作家5名を紹介する。
取組実績	・会期 5月1日～7月4日（24日間）（*緊急事態宣言により5/1～7/4 臨時休館） ・観覧者数 高校生以上 212名 小中学生以下 8名 合計 220名 ・関連事業 作家によるギャラリートーク（13名）
成果	身近な管内で活躍する作家を紹介できた。
課題	小・中学生の鑑賞者が少ないため改善が必要。
今後の方向性	小・中学生の書写から表現の書への過程の展覧会が必要である。

項目	北海道立釧路芸術館所蔵『釧根の三人展』の開催（新規）
目的	道東釧路・根室出身の作品を紹介する。
取組実績	・会期 8月14日～10月10日（20日間）（*緊急事態宣言により、8/27～9/30 臨時休館） ・観覧者数 高校生以上 190名 小中学生以下 1名 合計 191名
成果	道東出身作家の紹介ができ芸術鑑賞の拡充が図られた。
課題	道内の別エリアの作品も検討したい。
今後の方向性	今後も道内の別エリアの作家紹介を継続したい。

項目	-これが正解です(か?)-『大橋鉄郎展』(新規)
目的	紙による立体作品や映像をつかった現代アートを紹介する。
取組実績	・会期 10月30日～12月12日(37日間) ・観覧者数 高校生以上190名 小中学生以下76名 合計266名 ・関連事業 ギャリートーク 10月30日 24名参加
成果	コピー用紙で制作された立体作品や映像による作品を紹介し、インスタレーション(仮設空間作品)を紹介できた。
課題	現代作家では空間や映像、プロジェクションマッピングなどの展示などを展示する手法等も模索する必要がある。
今後の方向性	今後も優れた現代作家の作品について紹介していきたい。

項目	-人と繊維と-『鈴木純子展』(新規)
目的	繊維による平面作品や立体作品をつかった現代アートを紹介する。
取組実績	・会期 2月19日～3月27日(30日間) ・観覧者数 高校生以上478名 小中学生以下32名 合計510名 ・関連事業 ギャリートーク 2月19日 35名参加
成果	我々の身近にある「繊維」を使用し、独自の平面(織物)や立体作品を紹介できた。
課題	現代作家では空間や映像、プロジェクションマッピングなどの展示などを展示する手法等も模索する必要がある。
今後の方向性	今後も優れた現代作家の作品について紹介していきたい。

③移動展の開催

項目	第62回北海道書道展 網走移動展の開催(継続)
目的	第62回北海道書道展の移動展を開催し、書道作品を広く紹介することで、『書写』から芸術表現での『書』への移行を紹介する。
取組実績	・会期 7月10日～8月1日(18日間) ・観覧者数 高校生以上197名 小中学生以下14名 合計211名 ・関連事業 解説会・揮毫会はなし
成果	道内最大級の書による公募展作品を紹介できた
課題	高校生などの書道作品の展示や著名な書家の作品展示の検討が必要である。
今後の方向性	市民の創作活動を促すために継続していく。

項目	第68回写真道展 網走移動展(継続)
目的	北海道内の写真公募展である『第68回写真道展』移動展を開催し、写真作品の鑑賞機会を提供する。
取組実績	・会期 12月25日～1月23日(21日間) ・観覧者数 高校生以上100名 小中学生以下9名 合計109名 ・関連事業 解説会・佐々木砂宗さん 12/26 6名
成果	道内最大級の写真公募展を紹介できた。
課題	市内から写真道展への出品が少なく、鑑賞者が伸び悩む状況であり、関心を高めるための普及事業や広報活動などの取り組みが必要
今後の方向性	写真の普及のため継続して、移動展を開催していく。

④講座・教室の実施

項目	オホーツク・アートセミナー（美術部門）の支援（継続）
目的	オホーツク・アートセミナーの企画・運営に協力し、美術への関心を高めるとともに、技術の向上を図る。
取組実績	デザイン講座（オリジナルバッチ） 2月11日・12日 参加者 12名 彫刻講座（高麗石で宝物を作る） 3月12日・13日 参加者 11名
成果	立体制作の塑像（モデリング）彫刻（カービング）の両方の技法を学べた。
課題	一部特殊な材料であったため個人で継続することができる技法を模索してゆく。
今後の方向性	市民の創作活動を促すために継続していく。

項目	出張美術館の実施（継続）																											
目的	学校等に出張して作品を展示、鑑賞してもらうことで、児童・生徒・学生の美術に対する興味・関心の高揚を目指す。																											
取組実績	<table border="0"> <tr> <td>網走小学校</td> <td>10月4日～10月21日(18日間)</td> <td>299名</td> </tr> <tr> <td>白鳥台小学校</td> <td>11月1日～11月5日(5日間)</td> <td>64名</td> </tr> <tr> <td>第二中学校</td> <td>11月8日～11月12日(5日間)</td> <td>190名</td> </tr> <tr> <td>西小学校</td> <td>11月15日～11月19日(5日間)</td> <td>155名</td> </tr> <tr> <td>第三中学校</td> <td>11月22日～11月30日(9日間)</td> <td>321名</td> </tr> <tr> <td>中央小学校</td> <td>12月13日～12月24日(12日間)</td> <td>403名</td> </tr> <tr> <td>呼人小中学校</td> <td>1月24日～2月10日(18日間)</td> <td>99名</td> </tr> <tr> <td>第四中学校</td> <td>2月14日～2月19日(6日間)</td> <td>119名</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>合計 1,650名</td> </tr> </table>	網走小学校	10月4日～10月21日(18日間)	299名	白鳥台小学校	11月1日～11月5日(5日間)	64名	第二中学校	11月8日～11月12日(5日間)	190名	西小学校	11月15日～11月19日(5日間)	155名	第三中学校	11月22日～11月30日(9日間)	321名	中央小学校	12月13日～12月24日(12日間)	403名	呼人小中学校	1月24日～2月10日(18日間)	99名	第四中学校	2月14日～2月19日(6日間)	119名			合計 1,650名
網走小学校	10月4日～10月21日(18日間)	299名																										
白鳥台小学校	11月1日～11月5日(5日間)	64名																										
第二中学校	11月8日～11月12日(5日間)	190名																										
西小学校	11月15日～11月19日(5日間)	155名																										
第三中学校	11月22日～11月30日(9日間)	321名																										
中央小学校	12月13日～12月24日(12日間)	403名																										
呼人小中学校	1月24日～2月10日(18日間)	99名																										
第四中学校	2月14日～2月19日(6日間)	119名																										
		合計 1,650名																										
成果	多くの児童生徒等に美術鑑賞の機会を提供できた。																											
課題	今後も、実施時期・期間について、学校との調整を充分に行う必要がある。																											
今後の方向性	今後も継続して多くの学校で開催していく。																											

項目	研修等の受入（継続）																																												
目的	職場体験や校外学習の受入を行い美術館を身近に感じてもらえる機会を設け、美術活動の普及拡大を目指す。																																												
取組実績	<table border="0"> <tr> <td>講座</td> <td>高校生オープン講座</td> <td>通年</td> <td>38名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>オホーツク・アートセミナー</td> <td>デザイン講座</td> <td>2月11日、12日 12名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>オホーツク・アートセミナー</td> <td>彫刻講座</td> <td>3月12日、13日 11名</td> </tr> <tr> <td>鑑賞</td> <td>鑑賞学習</td> <td>第二中学校見学</td> <td>6月29日 7名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>鑑賞学習</td> <td>クリオネ学級</td> <td>6月30日、3月18日 4名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>鑑賞学習</td> <td>東京農業大学</td> <td>7月13日 45名</td> </tr> <tr> <td>研修</td> <td>第二中学校職場体験</td> <td>7月15日、16日</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>寿大学研修</td> <td>10月8日</td> <td>13名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>社会教育委員視察</td> <td>10月9日</td> <td>11名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>博物館実習受入</td> <td>10月12日～11月7日</td> <td>37名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>釧路市立釧路小学校（修学旅行）</td> <td>11月18日</td> <td>24名</td> </tr> </table>	講座	高校生オープン講座	通年	38名		オホーツク・アートセミナー	デザイン講座	2月11日、12日 12名		オホーツク・アートセミナー	彫刻講座	3月12日、13日 11名	鑑賞	鑑賞学習	第二中学校見学	6月29日 7名		鑑賞学習	クリオネ学級	6月30日、3月18日 4名		鑑賞学習	東京農業大学	7月13日 45名	研修	第二中学校職場体験	7月15日、16日	12名		寿大学研修	10月8日	13名		社会教育委員視察	10月9日	11名		博物館実習受入	10月12日～11月7日	37名		釧路市立釧路小学校（修学旅行）	11月18日	24名
講座	高校生オープン講座	通年	38名																																										
	オホーツク・アートセミナー	デザイン講座	2月11日、12日 12名																																										
	オホーツク・アートセミナー	彫刻講座	3月12日、13日 11名																																										
鑑賞	鑑賞学習	第二中学校見学	6月29日 7名																																										
	鑑賞学習	クリオネ学級	6月30日、3月18日 4名																																										
	鑑賞学習	東京農業大学	7月13日 45名																																										
研修	第二中学校職場体験	7月15日、16日	12名																																										
	寿大学研修	10月8日	13名																																										
	社会教育委員視察	10月9日	11名																																										
	博物館実習受入	10月12日～11月7日	37名																																										
	釧路市立釧路小学校（修学旅行）	11月18日	24名																																										
成果	多くの鑑賞者、研修の受入を行い、美術館を広く知ってもらえる機会となった。																																												
課題	特になし。																																												
今後の方向性	今後も鑑賞学習や職場体験などを積極的に受入していく。																																												

(4) 博物館の充実

項目	特別企画展「網走のはじまり展」の開催（新規）
目的	郷土の歴史を学び、親しむ機会を提供する。
取組実績	・会 期：令和4年2月1日～3月31日 ・入場者：1,153名 ・関連事業：展示説明会 2月6日 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成果	網走の街が形成され始めた明治時代の様子を紹介できた。
課題	小中学生の見学機会の増加のため、学校との連携が必要
今後の方向性	網走の歩みをテーマとして開催し、市民が郷土の歴史を見つめ直す機会とする。

項目	特別企画展「網走の蝶・蛾展」の開催（新規）
目的	郷土の自然を学び、親しむ機会を提供する。
取組実績	・会 期：令和3年8月1日～8月26日 ※9月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・入場者：585名 ・関連事業：展示説明会 8月8日 参加者：17名
成果	網走地域に生息する蝶や蛾の種類や生態について紹介できた。
課題	特別企画展と関連した観察会の開催など、誘客機会の充実が必要
今後の方向性	網走の自然に触れる機会として、テーマを変えながら開催していく。

項目	剥製標本作製（継続）
目的	網走の自然資料を通して、郷土を身近に学び親しむ場を提供する。
取組実績	・剥製標本作製 ブリ、エゾリスの剥製2点（博物館展示）
成果	実物の自然資料の収集・公開によって、郷土の自然の豊かさを伝えた。
課題	限られたスペースでの展示方法の研究が課題
今後の方向性	郷土の自然資料の収集・整理及び資料修理等をすすめる。

5 文化財

(1) モヨロ貝塚の保護と活用

項目	モヨロ貝塚PR事業（継続）
目的	モヨロ貝塚PRにより、モヨロ文化を街のシンボリックイメージとして定着させる。
取組実績	・広報活動の充実（ホームページ、新聞・雑誌等での案内、案内チラシ配布） ・案内看板設置（道路等10箇所、空港電照看板）及び、出土品展示（市内外8箇所） ・モヨロカレッジの開講（モヨロ文化に係る講義と体験学習の全6講座） ※講義1、講義3、体験3は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 講義1 「モヨロ以前の人びと」 6月26日 中止 体験1 「モヨロ人の石器づくり」 7月10日 参加者：22名 体験2 「モヨロ人の土器づくり」 8月21日 参加者：14名 体験3 「モヨロまつり」 9月18日 中止 講義2 「モヨロ文化市民講座」 10月24日 参加者：55名 テーマ：モヨロと目梨泊～オホーツク文化に運ばれた金の宝もの 講 師：高島孝宗氏（オホーツクミュージアムえさし館長） 講義3 「モヨロ以後のムラ」 11月21日 中止
成果	モヨロカレッジとしてモヨロ文化を総合的に学ぶ機会を提供できた。
課題	各種の広報活動の検討と観光機関等との一層の連携が必要
今後の方向性	多様な広報活動を一層すすめ、幅広い年代層へのモヨロ文化の周知を図っていく。

(2) 文化財の保護と周知

項目	博物館重要文化財指定推進事業（継続）
目的	博物館建物の重要文化財指定を目指し、建物の文化財的な価値を高める。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「田上義也氏の魅力を語るつどい」の開催 開催日：令和3年11月3日 13：00～15：30 参加者：39名 ・パネル展「網走地域の田上義也建築」の開催 会 期：令和3年11月3日～11月14日 入場者：157名
成果	つどい等の開催を通して、博物館設計者、田上氏の建築の魅力を紹介できた。
課題	文化財的価値を充分検討しながら、建物保全に努めることが重要である。
今後の方向性	博物館建物を含め、田上建築の文化財的価値の周知を図る。

6 スポーツ

(1) スポーツ施設の整備、利用促進

項目	総合体育館の整備（拡充）
目的	スポーツへの参加機会の拡充と施設の効果的な利用促進・活用を図る。
取組実績	高圧受電設備改修、外部キュービクル設置
成果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課題	施設の老朽化が進んでおり、施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項目	陸上競技場の整備（継続）
目的	スポーツへの参加機会の拡充と施設の効果的な利用促進・活用を図る。
取組実績	3種公認検定、3種公認陸上競技用器具一式、棒高跳びボックス購入
成果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課題	トラック舗装の摩耗等が進んでおり、施設の改修や必備用具の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項目	漕艇場の整備（拡充）
目的	利用者が安全・快適に利用できる施設整備、利用者へのサービス向上、利用促進を図る。
取組実績	栈橋更新
成果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項目	スキー場の整備（拡充）
目的	利用者が安全・快適に利用できる施設整備、利用者へのサービス向上、利用促進を図る。
取組実績	スノーモービル更新、圧雪車油圧ホース等修繕、室内ストーブ更新
成果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項目	スポーツ・トレーニングフィールドの整備（拡充）
目的	利用者が安全・快適に利用できる施設整備、利用者へのサービス向上、利用促進を図る。
取組実績	ナイター設備改修工事、野球場フェンス修理
成果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

（２）スポーツ活動の促進

項目	各種スポーツ教室の開催（継続）
目的	市民が気軽に楽しめるスポーツ教室等の開催
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市民硬式テニス教室 12名 6日間 延 65名 ・市民バドミントン教室 6名 6日間 延 34名 ・冬休みスケート教室 30名 4日間 延 111名 ・市民スキー教室・初心者スノーボード教室 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成果	子どもから大人まで各教室とも基本技術の習得と競技の楽しさを体験することができる教室として好評を得ている。
課題	参加者が少ない種目については、そのあり方についての検討が必要である。
今後の方向性	市民ニーズに対応するため、種目・対象・日程を参加しやすい環境にして参加者増に努める。

項目	いきいき健康体力づくり教室の開催（継続）
目的	高齢者が気軽に楽しめるスポーツ教室等の開催
取組実績	市内 60 歳以上の方を対象に毎月 1 教室を開催（教室によって実施回数が異なる） 参加者数 18名 13回実施 延 96名
成果	高齢者の体力維持、健康づくりという点で毎年参加者から好評を得ている。
課題	高齢者が、安全で理解しやすく、一年を通して継続して参加できる教室内容とすることが必要である。
今後の方向性	スポーツ推進委員と新種目の検討、運営のノウハウを研究しながら継続する。

項目	オホーツク歩くスキーの集いの開催（継続）
目的	市民が気軽に楽しめる冬のスポーツ行事の開催
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日 令和 4 年 2 月 20 日（日） ・会場 道立オホーツク公園「てんとらんど」 ・参加者数 23 名
成果	市民に対して、気軽に取り組める冬季スポーツの普及を図ることができた。
課題	参加者の増加につなげるため、歩くスキーの普及拡大が必要である。
今後の方向性	運動不足になりがちな冬季に気軽に取り組むことができるスポーツの普及を図るため、今後も継続する。

項目	こどもスポーツチャレンジ事業（継続）
目的	少年期からスポーツに親しむことにより、体力の向上を図るとともに、普段接することのない子ども達がスポーツを通じて、協調性を身につけることを目指す。
取組実績	参加者数 23 名 9 回 160 名
成果	運動する機会の少ない子ども達には、継続的に運動するきっかけとなり、参加者には満足度の高い事業となっている。
課題	子ども達のニーズの把握や、情報収集・研修が必要
今後の方向性	スポーツ推進委員と新たな種目の導入などについて検討を行い、継続して参加してもらえるような魅力ある事業としていく。

項目	夢の教室事業（継続）
目的	「夢先生」が自らの体験をもとに「夢をもつことの大切さ」、「仲間と協力することの大切さ」などについて講演と実技を通じて子ども達に伝える。
取組実績	市内小学校 8 校（5 年生。一部の小学校では 5～6 年生） 10 コマ 241 名受講 ※オンラインで開催 ・8月25日 講師「加藤 ゆか（水泳）」 網走小学校、東小学校 ・8月26日 「長谷川太郎（サッカー）」 白鳥台小学校、中央小 ・8月27日 「東 俊介（ハンドボール）」 西が丘小学校、呼人小学校 ・2月2日 「高橋 一馬（アイスホッケー）」 潮見小学校①、② ・2月3日 「保格 彩乃（サッカー）」 潮見小学校③、西小学校
成果	オリンピック出場選手等を「夢先生」として講師に招き、これまでの歩みや体験談等の話を聞くことにより、子ども達が自分の夢について考える時間を得ることができた。
課題	子ども達の関心を高めるため、著名な講師の派遣について依頼を行っていく。
今後の方向性	平成 28 年度以降、市内全校で実施しており、今後も継続して実施する。

項目	障がい児・者スポーツ教室の開催（継続）
目的	障がいのある方が、それぞれの状態に応じたスポーツを行うことにより、活動の場を広げるとともに、身体を動かす喜びを体感してもらい、さらには健康増進・体力向上に繋げていく取り組みを行う。また、スポーツ大会に出場できる選手の育成を目指す。
取組実績	障がい児・者とその家族等を対象としたスポーツ教室の開催 昼の部 9 回実施 参加申込者 17 名 延参加者 16 名 夜の部 9 回実施 参加申込者 8 名 延参加者 84 名
成果	参加した障がい児・者にとって定期的に運動する機会が増え、参加者及び関係者からは好評価を得ている。
課題	障がい児・者スポーツの専門的知識を持った指導者の育成
今後の方向性	スポーツ推進委員と教室の内容を研究し、継続して開催していく。

項目	日体大連携スポーツ教室の開催（継続）
目的	日本体育大学及び日本体育大学附属高等支援学校と連携し、スポーツ選手や指導者を講師として招き、講習会を開催することにより、トップアスリート及び指導者の育成を図る。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成果	
課題	参加者のニーズにあった教室内容について、研究していく必要がある。
今後の方向性	教室内容の充実を図り、継続して開催していく。

（3）活動組織や指導者の育成

項目	活動組織や指導者の育成（継続）
目的	スポーツ協会や各種スポーツ団体との連携協力を深め、必要な援助を行うとともに、次代を担う子ども達の育成支援を行う。
取組実績	・地域やスポーツ団体との連携（継続） スポーツ協会及び加盟団体との連携協力 ・スポーツ指導者養成支援（継続） ・スポーツ少年団の育成（継続） 登録団体数 22 団体 団員数 570 名 指導者数 134 名
成果	各団体が積極的にスポーツに取り組むことにより、各種目の競技力向上、団体の充実が図られるとともに、市教委主催のスポーツイベントなども通じ、より良い事業展開が図られた。
課題	多くの団体が指導者の不足・高齢化の問題を抱えている。
今後の方向性	各団体及び指導者に対する効果的な支援内容を研究しながら、継続して必要な支援を行っていく。

項目	スポーツ少年団活動支援事業（継続）
目的	スポーツ少年団が全道・全国大会に出場する際の交通費を助成することで、活動経費の負担軽減を図り、子ども達のスポーツ団体への加入を促進する等、スポーツ少年団活動の充実・活性化を図る。
取組実績	全国大会 2件 計 1,100千円 全道大会 9件 計 2,539千円 合計 3,639千円
成果	遠征費助成は、スポーツ少年団の活動支援に大きな効果があった。
課題	特になし。
今後の方向性	スポーツ少年団におけるスポーツ振興のため助成を継続し、競技の普及と競技力向上を図る。

項目	日体大屋内直線走路利用促進事業（継続）
目的	冬季間における陸上競技等のトレーニング施設が不足していることから、日本体育大学附属高等支援学校の屋内走路を活用し、市内のスポーツ団体等の活動の場を広げる。
取組実績	陸上競技 3団体 239名
成果	天候の影響を受けない屋内走路を利用することにより、冬季間のみならず練習内容の充実が図られた。
課題	日本体育大学附属高等支援学校との利用調整が必要
今後の方向性	関係団体等に継続して周知し、更なる利用促進を図る。

（４）スポーツ合宿や各種大会の誘致

項目	東京オリパラホストタウン構想推進事業（拡充）
目的	東京オリンピック・パラリンピック（以降、東京オリパラという。）において、オーストラリアの7人制ラグビーとパラレーサー（車いす陸上）及び韓国の陸上長距離の「ホストタウン」に登録し、事前・直前の合宿誘致とともに、大会参加国・参加選手との交流や日本人オリンピック等との交流を行うことにより、地域の活性化を図ることを目的とする。
取組実績	・講演会の開催 講師：狩野 亮氏（7/2 エコーセンター2000 参加者数：74名） ・東京2020パラリンピック聖火リレー網走市採火式（8/1 総合体育館：市長、教育長、代表3名、流水パタラ）
成果	市民交流事業等を通じて、東京オリパラに向けた機運醸成が図られた。
課題	特になし。
今後の方向性	・交流事業を実施し、市民の東京オリパラに向けた機運醸成を図る。

項目	障がい者スポーツ合宿誘致事業（継続）
目的	日本障がい者スポーツ協会等の競技団体やトップアスリートへの誘致活動を積極的に実施することにより、合宿誘致を図る。
取組実績	・シットスキー 2団体 6名 延33名 ・車椅子レーサー 2団体 2名 延21名
成果	・シットスキー2団体、車椅子レーサー2団体の合宿が行われた。 ・アスリートが網走合宿を行うことにより、スポーツ振興と地域の活性化が図られた。
課題	合宿受け入れ体制（バリアフリー化の推進など）の充実を図る必要がある。
今後の方向性	障がい者スポーツ関係団体等に対し、誘致活動を継続する。

項目	スポーツ合宿受入対策事業（継続）																														
目的	国内トップアスリートをはじめ多くの競技者の合宿を受入れることにより、地域のスポーツ振興と活性化を図る。																														
取組実績	<table border="1"> <tr> <td>陸上競技</td> <td>39 団体</td> <td>607 名</td> <td>延</td> <td>4,927 名</td> </tr> <tr> <td>サッカー</td> <td>1 団体</td> <td>35 名</td> <td>延</td> <td>420 名</td> </tr> <tr> <td>スキー</td> <td>3 団体</td> <td>26 名</td> <td>延</td> <td>151 名</td> </tr> <tr> <td>スケート</td> <td>1 団体</td> <td>40 名</td> <td>延</td> <td>680 名</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2 団体</td> <td>2 名</td> <td>延</td> <td>21 名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>46 団体</td> <td>710 名</td> <td>延</td> <td>6,199 名</td> </tr> </table>	陸上競技	39 団体	607 名	延	4,927 名	サッカー	1 団体	35 名	延	420 名	スキー	3 団体	26 名	延	151 名	スケート	1 団体	40 名	延	680 名	その他	2 団体	2 名	延	21 名	計	46 団体	710 名	延	6,199 名
陸上競技	39 団体	607 名	延	4,927 名																											
サッカー	1 団体	35 名	延	420 名																											
スキー	3 団体	26 名	延	151 名																											
スケート	1 団体	40 名	延	680 名																											
その他	2 団体	2 名	延	21 名																											
計	46 団体	710 名	延	6,199 名																											
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技長距離を中心に合宿が行われた。 ・合宿人数は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、女子サッカー1チームの合宿により増加し、当市で合宿を実施したチームが好成績を収めている。 ・アスリートが網走合宿を行うことにより、スポーツ振興と地域の活性化が図られた。 																														
課題	毎年受け入れ人数に多少の増減があるため、安定した合宿者の誘致が課題																														
今後の方向性	より多くのスポーツ合宿の誘致活動に努める。																														

項目	全国・全道大会の開催支援（継続）
目的	全国・全道大会開催を支援することにより、大会の円滑な運営を図るとともに、各種目の競技力向上と普及、さらには地域の活性化を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ホクレン・ディスタンスチャレンジ網走大会（継続）選手 258 名 ※無観客開催 ・北海道学生野球春季・秋季リーグ戦（継続） ・国民体育大会ボート競技北海道ブロック予選会（継続） ・全日本シニア軟式野球北海道大会（新規） ・全日本少年軟式野球大会（新規） ・オープンヨットレース北海道シリーズ（継続） ・道東ジュニア室内水泳競技大会（継続）
成果	新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった大会があるものの、開催された競技ではレベルの高い大会が行われ、競技力の向上と各団体の運営能力の向上が図られるとともに、地域の活性化が図られた。
課題	大会開催の支援にあたって、事前に大会規模の把握が必要なこと、また、大会数・規模が毎年変動することへの対応
今後の方向性	地域の競技力向上と活性化を図るため、今後も支援をしていく。

7 国際化対応

(1) 国際化に対応した教育や人材の育成

項目	国際理解体験事業（継続）
目的	幼少期から生の外国語にふれたり、外国の伝統的な行事を体験することにより、国際感覚をもった人材を育成する。また、外国文化にふれることにより、世界に目を向け国際化に対応できる人材を育成する。
取組実績	<p>■ハロウィーン・スクール2021～妖怪勉強会～</p> <p>日時 10月16日（土）13時30分～14時30分</p> <p>会場 エコーセンター2000 エコーホール</p> <p>参加者 小学生40名、ボランティア7名</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北アメリカでのハロウィーンの過ごし方 ・伝統的なハロウィンモンスターの由来と日本と世界の妖怪について ・三択クイズ ・仮装大賞 <p>■世界を旅しよう！～網走で外国を体験～</p> <p>日時 1月16日（日）14時～15時</p> <p>会場 エコーセンター2000 2階大会議室</p> <p>参加者 小学生24名、ボランティア1名</p> <p>内容 ケニア、スウェーデンについてビンゴゲームを通じて学ぶ機会を提供。</p>
成果	外国の伝統的な文化・風習のほか、世界のさまざまな国を体験・理解する学習機会として定着している。学生Hero'sや市民ボランティアの協力のもと、遊びを通じた国際理解体験の機会を創出できた。
課題	ボランティアと参加者が相互に外国文化に触れる機会となる内容・手法の研究
今後の方向性	子どもたちの国際感覚を育成するために有効な事業であり、参加希望も多く寄せられており、引き続き取り組んでいく。

項目	英会話指導員の配置（継続）
目的	幼少期（認定こども園・幼稚園・小学校）から生の英会話にふれることで、英語への関心を高め、国際化に対応できる人材を育成する。
取組実績	<p>・認定こども園・幼稚園・小学校での英会話指導</p> <p>認定こども園・幼稚園： 5園 51時間10分</p> <p>小学校： 9校 842時間35分</p> <p>一般・サークル支援 12時間 合計 905時間45分</p>
成果	英会話指導は、教員と意見交換を行い幼児から小学6年生までの段階的な指導要領を作成したことにより、発達段階に応じた系統的な指導が可能になった。
課題	各小学校、幼稚園、認定こども園での外国語活動への対応について、学校などの関係機関と連携しながら調整を図る必要がある。
今後の方向性	小学校の外国語教育の必修化を踏まえ、子どもたちの英語力を高め、国際理解を深める有効な事業であり、引き続き取り組んでいく。

Ⅲ 教育委員会の活動状況

1 教育長および教育委員の就任状況

教育長：岩永 雅浩（令和 3年 4月 1日就任）
 委員：富永 雄一（平成24年10月 1日就任、職務代理 平成30年4月1日就任）
 中山 真弓（平成26年 4月 1日就任）
 益村 公人（令和 4年 2月 5日退任）
 伊藤 亮人（令和元年 7月 1日就任）
 佐々木砂宗（令和 4年 3月23日就任）

2 教育委員会議の開催状況

網走市教育委員会における会議(教育委員会議)は、定例会のほか、必要がある場合には、臨時会を開催し、教育委員会の決裁を要する案件(議案)について、審議を行うとともに、重要事項について事務局から報告等を受けている。また、案件等について事前に意見交換や協議をする必要がある場合には、教育委員会協議会を開催している。

令和3年度の教育委員会議等の開催状況は次のとおりであり、平成22年1月以降の教育委員会議の開催状況については、市のホームページに掲載をしている。

なお、会議の傍聴者はいなかった。

回	開催日	出席 委員数	案 件	審議 結果
1	令和3年 4月19日	3名	議案第1号 令和3年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市教職員住宅長寿命化計画の策定について 議案第3号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第4号 網走市博物館協議会委員の委嘱について	原案可決 〃 〃 〃
2	令和3年 5月10日	4名	議案第1号 網走市奨学生選考委員会委員の委嘱について 議案第2号 網走市社会教育施設審議会委員の委嘱について	原案可決 〃
3	令和3年 5月24日	3名	議案第1号 令和3年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 学校給食共同調理場運営委員会委員の委嘱について 議案第3号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第4号 網走市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第5号 網走市図書館協議会委員の委嘱について 議案第6号 網走市美術館協議会委員の委嘱について 報告第1号 令和2年度卒業式・令和3年度入学式の状況について 報告第2号 市内小学校における新型コロナウイルス感染症の発生状況について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃 報告承認 〃
4	令和3年 6月18日	4名	議案第1号 網走市教育委員会職員の任免について	原案可決
5	令和3年 6月28日	3名	議案第1号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第2号 網走市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第3号 網走市学校保健委員会委員の委嘱について 議案第4号 網走市奨学生選考委員会委員の委嘱について 議案第5号 網走市社会教育委員の委嘱について 報告第1号 令和3年度一般会計(学校給食費)補正予算について	原案可決 〃 〃 〃 〃 報告承認

6	令和3年 7月30日	2名	議案第1号 網走市給付型奨学金支給規則の制定について 議案第2号 網走市学校運営協議会委員の任命について 報告第1号 令和3年度網走市社会教育推進計画について	原案可決 〃 報告承認
7	令和3年 8月20日	3名	議案第1号 令和3年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市教育委員会事務点検・評価報告書の提出について 議案第3号 網走市図書館協議会委員の委嘱について 議案第4号 網走市博物館協議会委員の委嘱について 議案第5号 網走市スポーツ推進審議会委員の委嘱について	原案可決 〃 〃 〃 〃
8	令和3年 9月24日	3名	議案第1号 令和3年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第3号 網走市サン育英奨学金選考委員会委員の委嘱について 報告第1号 令和3年度一般会計(学校給食費)補正予算について 報告第2号 市内小中学校における新型コロナウイルス感染症の発生状況について 報告第3号 学校給食における異物混入について	原案可決 〃 〃 報告承認 〃 〃
9	令和3年 9月29日	4名	議案第1号 網走市教育委員会職員の任免について	原案可決
10	令和3年 10月26日	2名	議案第1号 網走市立学校職員の自家用車の公用使用に関する規則の一部改正について 議案第2号 網走市いじめ問題等対策連絡協議会委員の委嘱について 議案第3号 網走市いじめ問題専門委員会委員の委嘱について 議案第4号 令和3年度全国学力・学習状況調査結果の公表について	原案可決 〃 〃 〃
11	令和3年 11月26日	4名	議案第1号 令和3年度一般会計補正予算要求について	原案可決
12	令和3年 12月8日	3名	報告第1号 令和3年度網走市サン育英奨学金奨学生の採用内定について 議案第1号 令和4年度教育予算の要求について	報告承認 原案可決
13	令和4年 1月19日	3名	議案第1号 網走市奨学資金貸付条例施行規則の一部を改正する規則制定について 議案第2号 網走市教育委員会職員の任免について	原案可決 〃
14	令和4年 2月14日	3名	議案第1号 学校職員の処分内申について 議案第2号 令和3年度一般会計補正予算要求について 議案第3号 令和4年度教育予算について 議案第4号 令和4年度教育行政推進方針について 議案第5号 令和3年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果」の公表について	原案可決 〃 〃 〃 〃
15	令和4年 1月28日	3名	議案第1号 網走市教育委員会職員の任免について	原案可決
16	令和4年 3月10日	3名	議案第1号 令和4年4月1日付校長人事の内申について 議案第2号 令和4年4月1日付教頭人事の内申について 議案第3号 令和3年度一般会計補正予算要求について	原案可決 〃 〃
17	令和4年 2月17日	3名	議案第1号 令和3年度一般会計補正予算要求について	原案可決

18	令和4年 3月28日	3名	議案第1号 押印等の見直しに伴う関係教育委員会規則の整理に関する規則制定について	原案可決
			議案第2号 網走市社会教育指導員設置規則の廃止について	〃
			議案第3号 網走市教育委員会が管理する行政財産の目的外使用許可に関する規則制定について	〃
			議案第4号 網走市立学校における働き方改革推進プラン(第2期)について	〃
			議案第5号 網走市学校運営協議会委員の任命について	〃
			議案第6号 網走市教育委員会職員の任免について	〃
			報告第1号 網走市教育委員会職員の任免について 報告第2号 令和4年4月1日付校長・教頭人事について	報告承認 〃
※上記のほか、協議会・話し合い等も開催している。				

3 その他の主な活動

(1) 各種会議への出席等

例年、教育委員は、教育委員会議に出席するほか、適宜、各種会議へ出席するとともに、学校訪問等を行っているが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入学式・卒業式は出席しないこととした。また、令和2年度中において成人式は延期となっている。

区分・会議名		出席者	時期
オホーツク管内 教育委員会協議会	教育長会議	教育長	随時開催（年数回）
	教育長部会（専門委員会を含む）	教育長	随時開催（年数回）
	役員会・総会（書面開催）	教育長他	令和3年9月
	網走ブロック総会・研修会（書面開催）	教育長他	令和3年9月
	教育長研修会（網走市）	教育長	令和3年10月21日
北海道都市 教育委員会 連絡協議会	総会（書面開催）	教育委員	令和3年8月
	教育長会春季総会（書面開催）	教育長	令和3年5月
	教育長会秋季総会（書面開催）	教育長	令和3年11月
※上記のほか、各種の会議・研修会等にも出席している。			

(2) 教育委員への情報提供

教育委員は、会議に出席するほか、事務局から適宜、教育行政上の課題等について情報提供を受け、事務局と意見交換を行っている。

令和3年度に情報提供等をした主なものは、次のとおりである。

< 案件以外で説明したもの >

- ・行政事務報告（市議会に係る報告を含む）
- ・各種会議・行事・イベント等の開催案内（毎月）
- ・学校経営報告について（毎月）
- ・熊出没、不審者情報等について（随時）
- ・新型コロナウイルス感染症の対応について（随時）

4 教育委員による自己点検

令和3年度の教育委員会活動に関して教育委員による自己点検を行い、次のとおり取りまとめを行った。

(1) 教育委員会と学校・PTA・各団体との意見交換などにより、互いの理解を深め、情報を共有して教育活動の適切な実施に努めたい。

- ・ これまで、校長会、教頭会、PTA役員などとの交流を通じ、互いに情報交換できる機会がありましたが、コロナ禍になり実行できておりません。可能であれば、学校・PTA・各団体との相互理解、共通理解のために、オンラインにて情報共有、情報交換の場を持てればと思います。
- ・ 学校教育においては、益々地域社会との連携が必要な時代になってきたと思います。社会の良識を数多く学ぶためにも、地域の方々とのふれあいは子どもたちにとって必要であるため、先生方のみならずコミュニティ・スクールへ参加される地域住民の方々と教育委員会が想うベクトルを一致させる事が大切と考えます。このコロナ禍においても3者が自由に意見交換が出来る場をつくるべきと考えます。
- ・ コロナ禍の環境において、対面での意見交換の場が相当に制限されました。特に先生方(校長・教頭)と教育委員会とのコミュニケーション不足は、円滑な教育活動にマイナス要素である事から、Web会議や計画的な学校訪問等を検討し、コミュニケーション向上に努めたいと思います。

(2) 今後も社会教育活動及び各学校の研究発表、その他の行事などに積極的に参加し、市民ニーズや現状の把握などに努め、教育の質的向上を図りたい。

- ・ コロナ禍の現状において、各学校のPTA主催による講演会また入学式・卒業式への参加は難しく大変残念に思います。
- ・ とても良い取り組みが多く行われており、より多くの市民の皆さんに知っていただくための情報発信の在り方を検討します。
- ・ スポーツ合宿・芸術文化合宿誘致活動は公演会や大会の市民の観覧にもつながり、芸術文化の発展、経済活動はもちろんのこと、子供たちの教育にも大きく寄与しているものと考えます。一方で、姉妹都市交流や観光事業など、教育性の高い事業が他部署で行われており、部門間の垣根を超えた協力により、更に意義や効果の高いものとなると考えます。
- ・ 社会人に対する学びの企画はよく活動されていると思います。受益者である参加市民の数をさらに膨らませるための広報活動が必要と思います。どのような情報発信が良いのかこれに重きを置いて取り組んで行ければと思います。

(3) 市民、特に児童生徒を対象とした健康・安全の確保、学校行事等の円滑な実施、施設の充実など、今後も事業内容を検討・精選しつつ、維持・継続されるよう努めたい。

- ・ 平成22年度から、社会教育部では「あばしり学」講座が行われています。学校教育部、社会教育部ともに、市民要望等に対応した、意欲ある新たな取り組みが行われており、参加者の高い評価が感じられました。
- ・ 社会教育分野の活動について、市民ニーズに応えられるよう、更なる充実を図ることが望ましいと感じます。
- ・ 学校や教育委員会施設の状況を把握するための、訪問ができませんでした。

昨今の状況を鑑みて可能な限り現場を訪問するよう努力します。

- ・ スポーツ施設やスポーツ行事の企画・開催に参画することで、市民や児童生徒の健康体力の向上に協力させていただいています。
- ・ 市民や児童生徒が健康で安全・安心な社会の構築に向け、施設の点検・防災教育など、地域・家庭・学校と連携を強化し、取り組みを引き続き行うとともに、地域や保護者、児童生徒に信頼される学校づくりを進めるために、教育委員会として支援できる体制を整備したいと思います。

(4) 児童生徒の学力・体力の基礎・基本を確実に身に付けさせるとともに、心の教育の充実に努めたい。

- ・ 児童生徒が体験を通じて楽しさを味わいながら学ぶ力を習得する機会が更に増えると思う。また、道徳の時間の授業公開も年々拡大してきていますので、今後も更に発展させてほしいと思います。
- ・ 心の教育・道徳については、家庭での協力が重要だと感じておりますので、学校から家庭への働きかけ等を通して学校と家庭が一体となり取り組む必要があると思います。
- ・ 英語授業については、ALT以外にも語学に堪能な市民に協力を依頼するなどして英語に慣れ親しむ機会が増えると思う。
- ・ 小学校にて英語授業が始まり苦手意識を少なくする為に、幼稚園保育園在園時から遊びの中において英語・英単語に触れる環境を整備検討できれば良いと思います。
- ・ 学力向上を含め、心の教育、食物アレルギーなどについては、家庭との協力が不可欠であり、学校と家庭との結びつきが重要であると感じています。児童生徒、保護者への信用・信頼・安心を互いに築けるよう、学校と家庭の距離感をなくすよう努めてほしいと思います。
- ・ 毎年行われている全国学力・学習状況調査の結果を、広報あばしり及び市のホームページにおいて公表したことにより、学校・家庭が一体となって児童・生徒の学習への取り組みが改善され、市内児童生徒の更なる学力向上を目指します。
- ・ 引き続き、校内研修や学習環境の充実、幼・保、小中高連携の推進、PTA・地域との連携による基本的な生活習慣の確立や家庭学習の習慣化などの学力向上に向けた様々な取り組みが必要であると思います。
- ・ 児童生徒に配布されているタブレットが、授業や学校のプリント等の活用だけでなく、電子図書館を利用できていることは、本を身近なものとして読書量の増加につながっているものと思います。
- ・ 児童生徒の体力の向上を図るため、現状行われている全国体力・運動能力、運動習慣等調査を公表し、学校・PTA・地域が一体となって、更なる体力向上を推進できる体制の構築を行ってまいります。また、学力だけではなく、体力についても、学力向上推進委員会と連携を密にし、今後の網走を支えていく子どもたちを育てていかなければならないと思います。
- ・ 大切な学校教育の人的資源である先生方のメンタルケアを行う仕組みづくりが必要と思われる。精神的、内面的にも医療従事者に相談等できるとなると良いと思います。また、時間外労働報告も散見されており、令和2年度以降は特にコロナ対応が普段の仕事に加算されたことも一因として考えられますが、今後も先生方の働き方改革が円滑に進むよう注視して行きたいと思います。
- ・ 教育委員会の中でも、学力・体力等の先進的な取り組みをしているところの視察や研修などを行うことを検討してまいりたいと思います。
- ・ 休校により自宅で過ごす時間が増えたこともあり、スマートフォンやタブレットなどICT機器に触れる機会も以前にも増して増えていると考えます。いわゆる、「ネッ

トいじめ」に対応した道徳教育、特に SNS やゲームの通信機能等を介在した情報モラル教育はもちろん、ITリテラシーの向上を図り、コミュニケーションや情報端末としての有効活用で、学力の向上にも寄与する取り組みがより一層必要と考えます。

(5) 学校の実情・地域の特徴に応じた魅力ある学校づくりを更に支援したい。

- ・ 各学校の代表が参加して自校の魅力を披露・発表する機会を設けてもよいのではないかと感じます。それにより、画一的な学校づくりを打破する材料を得られるのではないかと考えます。
- ・ 市内で始まったコミュニティ・スクールについて、校長会、教頭会などと連携し、地域の方々と学校との繋がりをバックアップして参りたいと思います。
- ・ コミュニティ・スクールの状況報告を受けながら、今後の環境整備充実のためのフィードバック情報を関係者と議論してまいります。
- ・ 自分自身が過去にPTA役員を務めていましたが、学校や地域の実情、特徴を改めて棚卸したことはありませんでした。コミュニティ・スクールの話し合いの場において、そのような投げかけをし、個人の持っている認識、情報を共有することで、議論の活性化、相互理解の深化が図られ、より魅力ある地域づくりにつなげてまいりたい。

(6) 教育委員会の更なる発展のため、意欲的な取り組みをしている他市の教育委員会との交流に取り組みたい。

- ・ 教育委員会は教育行政の基本的な施策の決定と重要な案件の処理を行うことから、今後も積極的に研修会や講演会に参加するなど自己研鑽に努める必要があります。
- ・ 学校生活において、日々起り得る問題に積極的に取り組んでいる他都市の教育委員会や団体から指導及び情報を得て役立てるよう努めたいと思います。
- ・ 教育委員会からの情報発信を、様々な媒体を使い積極的に行うことが必要だと考えます。そのことによって情報を受け取った他市との交流も生まれることが期待できると思います。引き続き、他市の教育委員会との意見交換の場への積極的な参加に努めたい。新型コロナウイルス感染拡大予防から今後しばらくは、他市教育委員会との意見交換の場が制約されると予想されるので、教育委員会を通じた様々な取り組みの情報収集に努めます。

(7) 教育委員、教育委員会事務局が連携を図るとともに、会議の公開・情報発信に努めながら、より一層、網走の教育発展のために努めていきたい。

- ・ 毎月開催される教育委員会議の開催日程、会議進行は適切であると感じます。今後も効率よく実施し、必要に応じて協議会などを開催すると良いと思います。引き続き、更に円滑な議事進行となるよう、資料の事前配布や全委員が出席できるよう開催日を調整することが必要であると思います。
- ・ 教育委員会議や協議会では、活発な意見交換を積極的に行うことが必要であると思います。今後も、事務局との情報提供・意見交換を積極的に行うことが必要であると思います。また、開かれた教育委員会を目指し、市民に対し、「なぜ情報発信をするのか」を考え、それを踏まえて、「どのようにしていくか」「なにをするのか」を考えると情報発信に必要なことから、会議の傍聴や議事録の閲覧についての周知が必要であると思います。
- ・ これまでに総合教育会議により、市長との意見交換が行われてきたところですが、今後も継続することにより、相互理解と教育行政の更なる進展を図ることができると思います。

- ・ 学校教育施設、社会教育施設の状況を把握するため、コロナ禍において可能な限り視察・研修する機会を次年度以降持ちたいと思います。
- ・ 教育委員会と学校、地域住民、他都市の教育委員会とも連携し、情報交換などの交流を深めていくべきだと思います。
- ・ 各教育計画策定において、わかりやすい表現で広報する事が教育委員会活動を市民の皆様にも周知させる第一歩だと思います。

(8) 学校教育運営のリスクマネジメント支援に努めたい。

- ・ 給食民間委託案件、給食調理場集約案件に関わり、この問題が抱える様々なリスク（最悪は給食提供の停滞他）をあらためて整理すると共に、これを丁寧に情報提供及び説明し、数多くの賛否両論者の意見を集積しながら合意形成する必要があります。最終成果は、子供達への安心な給食提供であることから、その命題がブレないよう教育委員会事務局のマネジメントを支援し、この問題を不安視する関係者との相互理解が出来るよう努めます。

IV 外部評価報告書

『網走市教育委員会に対する外部報告書（令和4年8月5日）』

網走市教育委員会外部評価委員

東京農業大学生物産業学部 教職課程兼担食香粧化学科 教授 後藤 広太郎
元網走市社会教育委員 岡山 一枝

1 総 評

網走市における教育行政の執行にかかる外部評価結果について報告いたします。以下、「大学という教育・研究機関の検証」という視点から、①網走市教育委員会の令和3年度活動における指摘事項、②網走市教育委員会の活動がより家庭・地域・学校に浸透するための提言、の二点について報告させていただきます。

2 大学という教育・研究機関の検証

（1）全体の評価

全国的に教育委員会に対して「具体的な活動成果を問う」声が多くなっている現状を考慮し、網走市教育委員会がさらなる発展を遂げて網走市の教育を充実させるため、早期の改善が可能な3点について指摘いたします。

① 教育委員会の活動が網走市民にあまり伝わっていない恐れがある

外部機関所属の立場からみると、インターネット上のHPを含め、「何をしているかよくわからない」という印象を持ちました。教育委員会関係者と外部（網走市民）間の意識に「乖離」がみられていると推測されます。

②教育委員会の業務において、ICT等の活用が不十分の可能性はある

教育委員会自己評価において、「コロナ禍により校長会、教頭会、PTA役員などとの交流がなされていない」との報告があります。ZOOM等によるWeb会議が昨年度なされていないことから、①教育委員会と市内小中学校がICTを活用しきれていない、②教育委員会が学校現場・保護者との連携をあまり重視していないと誤解される可能性が伺えました。

③学校教育の推進事業における効果検証が不十分の可能性はある。

各推進事業の「成果」について、どのようなデータを基に「成果があった」と判断したのか外部機関からは確認できませんでした。

（2）網走寺子屋学習サポート事業の評価

以下、特に注目した教育委員会の活動について、検証報告および事例を基に報告させていただきます。網走市教育委員会は、6年前から独自の取り組みとして「網走寺子屋学習サポート」を年数回土曜日午前中に定期的実施しております。この取り組みは、小学1年生から3年生を対象とした学習サポート活動で、教育委員会主導のもとで東京農業大学教職課程履修学生が子ども達と一緒に学習に取り組むスタイルを取っております（指導ではなく「メンタリング」活動）。

学習サポート効果を確認したところ、『一貫して小学生の学習に対する集中・意欲が向上している』、『大学生自身が普段より責任を自覚した振る舞いを見せている』、こと

が確認されました（事後報告レポートで検証）。このことから、教育委員会関係者の実に緻密で子どもを主役とした「教育環境」設定により、子どもも大学生もそれぞれ安心して楽しく意欲的に活動に取り組めるようになされていることが伺えます。また、保護者からの評価がとても高く、実施回数を増やしてほしいとの要望が数多く上がっております。

公立学校間比較において、学力が高い地域の一つである福井県（2018年度以降の学力・学習状況調査でも上位の結果）は、学力上位県となった背景の一つとして、県内の大学と小中学校が密接に連携して教育効果の向上を目指したことを挙げております。現在、網走市教育委員会は教員養成課程のあらゆる面で地域資源の一つとなり得る東京農業大学との具体的な連携を強めており、目先の結果だけにとらわれず、未来を見据えた中・長期的な視野に立って学力向上の土台強化を継続して進めていると評価いたします。

今後、①4～6年生も学習サポート対象として迅速に活動を拡大すること、②各小学校に頼らずに直接御家庭にアナウンスする取り組みを行う、③学習サポートの実施回数を毎月1回程度に増やす、④本活動を広く社会全般に発信することが期待されます。

（3）ICTの活用・小学校の英語教育・プログラミング教育等を充実させるための提言

前述した寺子屋学習サポートは、地域の資源・力を活用した効果的な取り組みであります。この形態はそのままコミュニティ・スクールのモデルとしても高く評価出来ます。全国の自治体によっては「形骸化」も囁かれているコミュニティ・スクールについて、網走市全体の小中学校において十分な機能を果たしているかどうか確認できておりません。

コミュニティ・スクールは、地域や保護者の方々に学校現場を理解していただく機会でもあり、一方で、現職教員を疲弊させることにつながりかねない「学校現場の業務増加」への具体的な対応策の一つとなり得ます。そのためには、特定の人材に偏らない組織構成が大切であり、そのことが子ども達を地域ぐるみで育てていくために、本当に意味のある学校運営につながるものと思われまます。この点につきましては、既に網走市教育委員会は「寺子屋学習サポート」という全国的に評価される「意味のあるコミュニティスクールモデル」を完成させております。

しかしながら、市内小中学校においては地域の資源・力を十分に活用できていないと判断いたしました。その原因は、教育委員会が目指す教育活動を市内各小中学校に浸透させられていない点が挙げられ、教育委員会の指導助言内容が、学校運営に反映されていない可能性を危惧しております。

一昨年度と昨年度において、保護者からの相談が増えておりますが、その内容は「ICT教育・英語教育・プログラミング教育・教員の力量等を含めた、現在と近未来の学校教育に関する不安」がほとんどであり、「学校に相談しても何も変わらない」との声も多くいただいております。このことから、教育委員会が素晴らしい事業・提案をされていても、学校現場に反映されにくい何らかの事情が推測されます。

外部評価の締めくくりとして、「公教育関係者以外の第三者」が網走市教育委員会の目指す素晴らしい教育活動を具現化するシステムを構築し、学校現場で行われる教育活動に対して必要に応じて各小中学校への指導助言が十分浸透するようサポートさせることを強く提言いたします。

3 社会教育事業に係る外部評価報告書

【生涯学習について】

- ・令和3年度は、令和2年度に続き、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により多くの団体やサークル活動が制限されるとともに、社会教育施設の臨時休館措置もあり、市民の生涯学習の推進にあたっては様々な制約があったものと感じています。
- ・そのような状況の中で「大きなかぶ応援事業」は、前年度を上回る事業実績があり、生涯学習推進指導員の登録者数も前年並みの登録を確保するなど、生涯学習に対する市民の期待が寄せられているものと考えられます。
- ・また築21年が経過し、雨漏りなどが発生していたオホーツク・文化交流センターについては、「屋上防水改修工事」が施され、これからも市民に愛される施設として維持されたことは大変うれしく思います。
- ・図書館においては、令和2年度に開始された「電子図書整備事業」が、蔵書数で約500点増加され、利用者数で約3倍、貸出冊数で約4倍になったことは、コロナ禍であることも要因と考えられますが、これからのデジタル化の流れもあるものと認識しており、事業の充実を今後も推進していただきたく思います。

【社会教育について】

- ・コロナ禍においても、感染対策を講じながら多くの事業に取り組まれていることが伺われます。特に子どもや高齢者を対象とした事業が多いため、これからも感染対策を講じながら、事業の推進を図っていただきたく思います。
- ・「あばしり学講座」については、子どもから大人までの市民を対象に幅広く事業展開がなされており、網走の魅力や価値について若い人たちに再認識してもらう良い事業となっていると考えます。これからも魅力ある事業展開を期待します。
- ・「寿大学」については、参加される高齢者の生きがい形成に大きく役立っていると認識しています。高齢者の健康づくりや知的好奇心の増強につながる事業展開とともに、単身高齢者が増える社会を鑑みて、高齢者同士や他世代とのつながりをつくる場となるよう事業構築を図っていただきたいと思います。

【家庭教育について】

- ・地域全体で子どもを育てる視点で、幼児から小中学校の生徒を対象とした事業に取り組まれています。特に「親と子のふれあい教室」や「幼児を育てる親の子育て講演会」の取り組みは、子育て世代を対象とした貴重な事業と考えられます。
- ・会場参加とオンライン参加を組み合わせたハイブリット形式による講演会の開催や託児を実施するなど、参加者に配慮した事業が展開されていることは、素晴らしい取り組みと感じますので、継続した取り組みをお願いします。
- ・「豊かな心を育てる小中学生の意見発表会」については、令和3年度はコロナウイルス感染拡大防止のため中止となってしまいましたが、意見発表文集を作成するなど工夫をされたことは評価したいと思います。子どもの情操教育の面から、今後はこのような情勢下においては、オンラインによる意見発表会の取り組みについても検討されてはどうかと思います。

【芸術文化について】

- ・コロナウイルスの感染拡大により、芸術文化事業がいくつか中止となったことは大変残念に感じましたが、仕方のない措置と思います。これからも優れた芸術文化事

業の企画をお願いしたいと思います。

- ・「芸術文化合宿誘致」、「ふるさとアーティスト公演事業」については、課題もあるかと思いますが、事業目的のもと継続して取り組んでもらいたいと思います。
- ・美術館では、毎年、様々な視点で企画展が開催されており、多くの市民に来館いただいていると感じております。特に令和3年度は、地元の芸術家や現代アートに視点を置いた企画展が実施され、ギャラリートークも行われ、作品をより深く学ぶことができるよう工夫がされています。
- ・美術館については、小中学生の来館が少ないように感じましたので、今後は小中学生にも関心が及ぶ内容についても検討を期待します。
- ・博物館では、網走の歴史や自然をテーマとした企画展示に力を入れておられることが伺われ、入館者数も令和2年度より増えていることから、市民の関心度も高いものと思いますので、今後も市民の関心を引く企画展の実施をお願いします。

【文化財について】

- ・文化財保護については、建造物の保存に力を入れられていることが感じられます。令和3年度においては、博物館を設計された建築家（田上義也氏）に視点を置いた事業企画やパネル展が開催され、多くの市民の関心を醸成されたと感じます。
- ・市民には文化財の保護活動が見えづらい面もありますので、今後は網走の文化財及び文化財保護の取り組みを分かりやすく周知いただけるようご検討をお願いします。

【スポーツについて】

- ・スポーツ施設の充実は、市民の体力増進、健康維持に欠かせないものと認識しており、施設維持には多額の費用が必要と思いますが、引き続き生涯スポーツの推進の観点から環境維持の取り組みをお願いします。
- ・「こどもスポーツチャレンジ事業」、「夢の教室事業」は、子どもたちの体力向上とスポーツへの関心を高め、情操教育に大きく役立つ取り組みとしますので、今後も継続した取り組みを期待します。
- ・スポーツ合宿の受け入れや、ホクレン・ディスタンスチャレンジなどの大会誘致に力を入れ、地域経済の活性化と連動したスポーツ振興が網走の魅力の一つになっています。ラグビーのスポーツ合宿については、トップリーグからリーグワンへの移行に伴う開催時期の変更などにより、網走での合宿が無くなってしまったことは非常に残念ではありますが、他のスポーツ合宿の可能性や大会誘致の取り組みをご検討いただき、市民との更なる交流促進に努めていただきたいと思います。

【国際化対応について】

- ・小学校の外国語教育の必修化が始まっています。英会話指導員を配置した国際化授業が網走市では、小学校の他に幼稚園でも実施されていることを評価したいと思います。
 - ・社会教育事業にも「国際理解体験事業」が組み込まれ、毎年、子どもたちを対象に外国の文化や風習について学習できる機会を市民ボランティアを交えて実施していることも、良い試みと考えておりますので、継続して実施いただきたく思います。
- 以上、簡単ではありますが報告に代えさせていただきます。